2006年　風来坊　Country Walk

里歩き・山歩き　&　山口・美祢・美祢の四季

Mutsu Nakanishi Home Page より

http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/

2007.1.1.

By　Mutsuo　Nakanishi

2006年　風来坊　COUNTRY WALK

里歩き・山歩き　&　山口・美祢・長門の四季

風来坊　Country　Walk　里歩き　2006

1. 2006年　春　　花の淡路島を訪ねて「
   春の花　菜の花・チューリップ・三色スミレ
2. 「ひとつたりとも　おろそかにできない命」　不戦の道を探って
   広島平 和の祈り・平和行進2006に参加
3. 2006年夏　瀬戸内海　遠望
   山や海峡から瀬戸内海はどこまでみとおせるのか・・・
4. 北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・ 筑前・筑後の遺跡を訪ねて
   写真アルバム　水田耕作・鉄・倭国　弥生の時代を作った渡来人たち
5. 甲州・信州国境　八ヶ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて　　2006.10.6.-10.10.
   「縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた」
   1. 日本人の心の故郷　　縄文の集落がそっくりそのまま見つかった
      茅ケ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる
   2. 初秋　白樺が美しい　紅葉し始めた清里の朝
      八ケ岳　清里　清泉寮に泊まって
   3. 縄文の黒曜石原産地遺跡　長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる
      黒曜石」を日本各地に配っていた信州　霧ケ峰・中山峠

風来坊　Country　Walk　山歩き　2006

1. 京都東山　陽だまりハイク　　2006.2.9.
   蝦夷の雄「アテルイ」の足跡「清水寺・将軍塚」と永観堂「みかえり阿弥陀仏」を訪ねて
2. 北摂連山の「キリシタンの里　千提寺」Country Walkと「マリア十五原義図」展
   大阪府茨木市　千提寺　　2006.2.8.
3. 弥生の高地性集落【1】芦屋市「会下山遺跡」からロックガーデンへ　　ハイキング

山口・美祢・長門の四季　2006

1. 6月の山口に広がる田園風景　山口吉敷の里と油谷半島の棚田　2006.6.2. 0607
2. 風来坊　写真アルバム山口・長門の秋　2006写真アルバム　美祢の朝霧　　2006.11.7.-11.
   1. 晩秋　美祢の朝霧　　美祢市来福台で
   2. 秋芳町から山口へ　秋吉カルスト台地　&　鳳翮山 山麓で
      - 山口吉敷の郷　赤田神社の紅葉
      - 秋芳町　別府弁天池
   3. 萩で　国民文化祭　陶芸展と萩の街
   4. 津和野の秋

風来坊　Country　Walk　里歩き　2006

1. 2006 年　春　　花の淡路島を訪ねて「
　　春の花　菜の花・チューリップ・三色スミレ
2. 「ひとつたりとも　おろそかにできない命」　不戦の道を探って
　　広島平 和の祈り・平和行進 2006 に参加
3. 2006 年夏　瀬戸内海　遠望
　　山や海峡から瀬戸内海はどこまでみとおせるのか・・・
4. 北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・ 筑前・筑後の遺跡を訪ねて
　　写真アルバム　水田耕作・鉄・倭国　弥生の時代を作った渡来人たち
5. 甲州・信州国境　八ケ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて　　2006.10.6.-10.10.
　「縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた」
　　1. 日本人の心の故郷　　縄文の集落がそっくりそのまま見つかった
　　茅ケ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる
　　2. 初秋　白樺が美しい　紅葉し始めた清里の朝
　　八ケ岳　清里　清泉寮に泊まって
　　3. 縄文の黒曜石原産地遺跡　長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる
　　黒曜石」を日本各地に配っていた信州　霧ケ峰・中山峠

1.　2006 年　春　花の淡路島を訪ねて　2006.3.26.

春の花　菜の花・チューリップ・三色スミレ

1.　花の島　淡路島に春の花を訪ねて　三色スミレ　　淡路島　花桟敷
2.　2006 年春　明石海峡・明石大橋　菜の花　　淡路島　花桟敷　　五色町　休耕田
3.　阪神淡路大震災記念館　　チューリップ　淡路島　　夢舞台・百段苑

もう、4 月になるというのに花便りはこれからの神戸
兵庫で一番先に春が訪れる花の島　淡路島に　「菜の花」を見にいってきました
神戸からの花便りです

1.　2006 年　春　花の淡路島を訪ねて

- 三色スミレ　　淡路島　花桟敷
- チューリップ　　淡路島　夢舞台・百段苑
- 菜の花　　淡路島　花桟敷　　五色町　休耕田

● 三色すみれ　淡路島　花桟敷

● チューリップ　　淡路島　明石大橋公園　夢舞台　百花苑

● 菜の花　淡路島　花桟敷　　五色町　休耕田

2.　明石海峡・明石大橋

夕暮れの明石海峡・明石大橋

3.　北淡町阪神淡路大震災記念館

2.　ひとつたりとも　おろそかにできない命」不戦の道を探って

広島平和の祈り・平和行進 2006 に参加　　2006.8.5.

平和を愛する人は幸い　「ひとつたりとも　おろそかにできない命」

「 命 どぅ 宝・ぬちどぅたから 」
戦争は人間の仕業　平和は正義の業　愛の実り
剣は鋤に　槍は鎌に　打ち直そう
弓をくだき　槍も盾も　焼き払おう
戦争は　愚かなこと
ヌチドゥ　タカラ　　ヌチドゥ　タカラ
与えられた　あらゆるもの　命を大切にしよう

命どぅ宝（ぬちどぅたから）［沖縄］.
何を置いても命こそが大切であるとの意味。

2006.8.5.　広島　平和公園周辺　　平和の像・原爆ドーム・カソリック平和記念聖堂（平和の祈り）

今年も　広島の 8 月が巡ってきた。 日に日に「平和憲法」「非核・不戦の誓い」は形骸化してゆく中で、広島は 8 月 6 日　原爆が投下されて 61 年を迎える。 「二度と核の過ちは繰り返さない」の思いは強いが、今年ほど　戦争の恐怖が現実に感じられたことはない。「鉄」の材料屋の私には「鉄は産業の米　鉄が社会を進化させ　文化・文明を育んだ」という思いと「穢れと戦い」を知らない日本人の祖先（縄文時代）に「戦い」を持ち込んだのは「鉄と稲作」（弥生時代）との思いがいつも交差しています。

今「不戦」の意思表示をしたくて　8 月 5 日広島で開催された「広島平和の祈り 2006」に参加し、講義・対話そして平和の祈り・平和行進を通じて、平和について多くの人たちと分かち合い「不戦」の意を新たにして帰ってきました。

景気は回復したというが、世の先行きになんとなく　不安が付きまとう
まったく中身のないキャッチコピーにおどらされ、心地よい言葉に酔いしれる
キャッチコピーのイメージと現実のギャップ　　仲間だと思っていた自分に疎外と不安感が荒涼とひろがり、
「自由・平等」「改革」「多数決　民主主義」の裏に「弱者切捨」「格差社会」の現実が忍び寄る
多数派に乗らないと生きてゆけない社会なんて異常である。
こんなはずではなかったのに・・・・・こんな評価の大逆転が日常茶飯事

一億総中産階層と高度成長・物質の豊かさを満喫した社会から雇用不安・弱者切捨ての厳しい格差競争社会が目の前にある。 戦争も高度成長・物質の豊かさ　一億総中産階層になるために払ったさまざまの代償の大きさが忘れ去られ、経験のないその豊かさだけを享受してきた無気力・自己中心的な年代が中心となる社会へと移りつつある。小学校では電卓をたたいて足し算が教えられるし、OX・結果重視のデジタル万能　質・感性は問わないという。 「癒し　心　グリーンエコ　」の言葉が薄っぺらに飛び交い　いつの間にか目的と手段がそっくりすりかえられてゆく。 「ゆとり・自由」とは「無責任放任」　「正義」と「平和」のことばが死語化し、世界各地では戦争が勃発し、国内では弱肉強食の「勝者の論理」がまかり通っている。

老年のわれわれには次のような切実な思いがある。

『何で一握りの勝者のために　踊らねばならぬのか・・・
　　あまりにもイメージの違う社会に　早く　舵をきりなおさねば・・・・・・・』　と。
なぜ武器を取らねばならないのか　何のために
本当にアジテーションされているように「不戦・非核は本当に問題解決の論拠とならないのか・・・」
何十年経ての歴史の答えは常に「ばかげた戦争　戦争が問題をより複雑にした」と・・・・・

何十年　何百年かかろうとも　「核・戦争　力の論議」は必ず破綻する
被爆の経験はありませんが、映画「原爆の子」や「許すまじ　原爆を」の歌　そして　広島原爆を撮った幾多の写真が頭に焼き付いているのですが、 でも　だんだん忘れて　今の時代の論議についつい引きずられていた私 そんな　意識を頭に「不戦」をもう一度考え、その意思表示をしたくて　8 月 5 日広島で開催された「広島平和の祈り 2006」に参加し、平和についての講義・対話そして平和の祈り・平和行進を多くの人たちと分かち合い「不戦」の思いを新たにして帰ってきました。

平和の像　　平和行進　2006.　　平和の祈り　2006.

私の参加した「広島平和の祈り 2006」は私の属する日本聖公会(英国国教会)の集まりで、本年は　8 月 5 日 6 日カソリック教会と合同で平和の祈り・平和行進を行いました。
広島では 8 月 6 日原爆投下後　61 年を迎え　街には数多くの人たちが平和を祈るため訪れ、数々の集会がこの時期開かれていました。 公式的な平和行事とは別に　今行動を起こしたくて・・・・・・と個人で広島を訪れた人たちが多いのにはびっくりでした。
もう　時間がないという老齢の人　孫をつれたひと　そして　若者　それぞれが、それぞれのスタイルで・・・・・・
広島で感じたのは　あの阪神大震災のときに感じたのと同じ仲間全体に広がる共感意識
ひとりひとりが　こだわりを捨て　ひとりになって　はっと気づいた共感
「ひとつたりとも　おろそかにできない命」

2006　広島平和行進　　2006. 8. 5. 夕　　平和公園→広島市街地→平和記念聖堂

「平和を妨げている要素は自分中に　原因ルーツを自分に求めれば、相互の共感が解決の道を生む
　「ひとつたりとも　おろそかにできない命」」それが「平和の原点」と聞きました
「主の平和がありますように」とキリスト者は唱えますが、
　十字架にかけられたキリストがそれでも説いた「汝の敵を愛する」
　武器では何にひとつ解決しない　　聖戦なんて存在しないし、十字軍の過ちをまた犯してはならない
「ひとつたりとも　おろそかにできない命」・「不戦・非核」を原点にすることこそが、「平和の道」
　心はまだ　揺れ動いていますが、そんな思いをあらたにして　帰ってきました。
「主の平和がありますように」

2006.8.5.「広島平和の祈り2006」に参加して

Mutsu　Nakanish

3.　2006年夏　瀬戸内海　遠望　2006. 8. 18.

山や海峡から瀬戸内海はどこまでみとおせるのか・・・・・・

古代　「瀬戸内の海道」は文化伝来の道　大和の国づくりの生命線

「稲作と鉄が文化と共に日本に戦さを持ち込んだ」といわれ、その痕跡が今も点々と残る高地性集落。

鉄を自給できなかった時代　鉄の供給路の守りが重要な役割だったかもしれない。

瀬戸内海は古代から　大陸・朝鮮半島から北九州を通って大和へいたる人・文化・物の重要な交流路

弥生時代から古墳時代　日本の国づくりの過程で　地域集団の安全を守るため、瀬戸内海を監視し、

相互に連絡を取る集落(弥生の高地性集落)が沿岸や島の高台や山に点々とあった。

本当に「狼煙」でどこまで見通せるのか　この夏　神戸・兵庫周辺の高地性集落をいくつか歩きました

明石海峡・明石大橋

鳴門海峡・大鳴門大橋

紀淡海峡・住金和歌山遠望　淡路島南淡黒岩より

四方を監視する弥生の高地性集落があった男鹿島

明石海峡から遠くかすむ男鹿島

播磨灘中央に浮かぶ男鹿島

鳴門海峡からみた男鹿島

姫路から船で約３０分　播磨灘に浮かぶ家島群島　男鹿島

今は石材採取の裸の島であるが、３６０度瀬戸内を見渡せるそんな島のひとつ

播磨灘・明石海峡・淡路　鳴門海峡・四国　坊勢島の向こうに備讃瀬戸

神戸伊川谷　表山高地性集落跡より

明石海峡

播磨灘沖より　姫路周辺

新日鉄広畑

ロックガーデン

大阪湾越しに生駒山

備讃瀬戸・備讃瀬戸大橋より

来島海峡・しまなみ海道より

四国高縄半島妙見山より伊予灘・新来島造船

遠く山並みがかすんで判然としない時でも　一筋の立ち昇る煙ははっきりと見えます。

播磨灘の男鹿島からは新日鉄広畑の煙突の煙がくっきり。

また、鳴門・小豆島はすぐ近く　相生から姫路沿岸　淡路・明石海峡も・・・・・・・・・

実際に　明石海峡・鳴門海峡から男鹿島が　遠くかすんで見えました

淡路島からはまた　紀淡海峡にかすむ和歌山が　四国今治高縄半島からは来島海峡の島々が点々と

古代の瀬戸内海　ネットワークを実感しました

4.　田稲作と鉄と倭国」　弥生の時代を作った渡来人たち　2006. 9. 7. &9. 8.

写真アルバム 北部九州　魏志倭人伝の世界「壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて」

縄文・弥生時代から魏志倭人伝・卑弥呼の弥生後期　そして古墳時代とつながる日本の黎明期

大陸からの日本列島への入りであった北部九州

北部九州に鉄と共に水田稲作が伝わり弥生の時代が始まり、

数々の渡来の人達がやってきて日本の国づくりがはじまった

Country walk 北部九州　魏志倭人伝の世界

「壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて」

1. 筑紫五郎山彩色古墳　　6 世紀　古墳時代の円墳
2. 筑紫吉野ヶ里弥生遺跡　弥生時代　前・中・後期の集落
3. 筑紫東名遺跡　佐賀県巨勢川調整池　筑後　縄文草創期の貝塚群
4. 唐津 菜畑遺跡　縄文晩期・弥生早期　弥生の始まり　最古の水田跡
5. 壱岐への玄関口呼子
6. 壱岐原の辻弥生遺跡　　魏志倭人伝「一支国」の中心集落
7. 壱岐の古墳群を訪ねて
8. 筑前金隈遺跡　　奴国の心臓部　月隈丘陵

■　写真アルバム　PDF file

【北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・筑前・筑後・筑紫の遺跡を訪ねて】

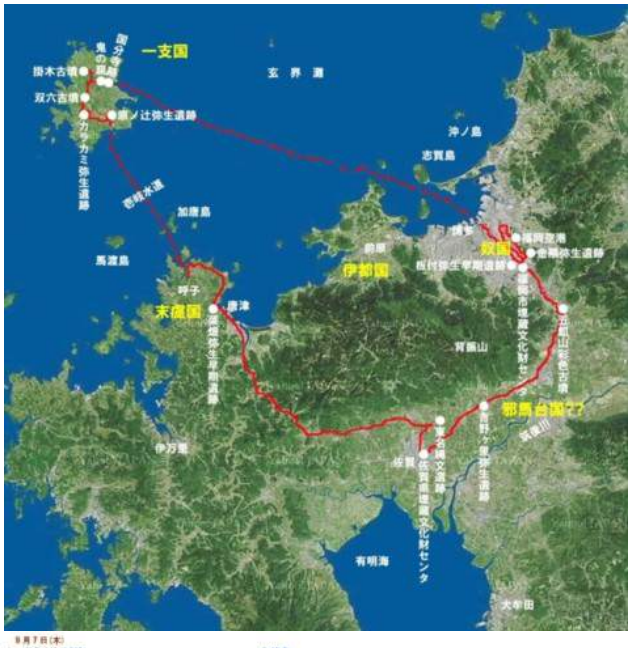
晴天に恵まれた９月７・８日　を縄文の仲間２０数名と北部九州　壱岐・筑前・筑後の遺跡　魏志倭人伝の世界を訪ねました。 また、私にとっては　大陸から日本に入ってきた「鉄」が日本をどのように変えていったのかを知るまたとない機会。

弥生の時代の幕開けを告げる最古の水田が見つかった唐津菜畑遺跡　以前より　一番いきたかった朝鮮半島と北部九州との中継地　壱岐　一支国の王都　原の辻弥生遺跡、九州邪馬台国の王都?筑紫吉野ヶ里　そして　奴国の中心を南北に伸びる丘陵地に眠る弥生の渡来人達の大墳墓郡と弥生の時代全体の流れを知ることが出来ました。

水田稲作と鉄と倭の国　弥生の時代を作った渡来人たちが今の自分たちにとってどんな存在なのか????

垣間見る楽しい旅でした。

いずれもよく知られた遺跡ですが、詳細をまとめるとなると膨大　簡単にはまとめ切れそうにないので　これれらの遺跡について　「どんな場所で歴史が生まれたのか」そして「今　どないなっているのか」と私の興味のおもむくままパチバチ撮った写真を Country Walk 風にアルバムにまとめました。



北部九州　魏志倭人伝の世界「壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて」　概要

1.　筑紫　五郎山彩色古墳　　6 世紀　古墳時代の円墳

肥後菊池川流域の北　筑紫筑後川流域にも　　彩色古墳を作った謎の渡来集団がいた

福岡平野の南端　西側から背振山塊　東側の宝満山が迫る狭い丘陵地を抜けるとその南には有明海に注ぐ筑後川が東西に流れる広大な筑後平野が広がる。その境の丘陵地　筑紫野市南端から小郡市にかけての丘陵周辺には数多くの渡来人が住んだところ。そこにも古墳時代　熊本県菊池川流域と同じ石室に彩色画が描かれた謎の彩色古墳があり、立派な古墳館が建っている。ここにも石室の壁に色鮮やかに人物・動物・船・家などが描かれている。これらの絵はここに眠る人達の死後の世界・世界観を表している。

一番気になったのは石室の入り口　左右の石に描かれた石棺を積んだ船の絵。

私はこれら彩色古墳のあるところ　いずれも古代製鉄と関連する川の流域にあり、朝鮮半島からやってきた渡来の製鉄集団の根拠地と思っている。五郎山古墳の周辺には鉄の痕跡はまだ見つかっていないらしいが・・・・。

いまだ、よく判らないが　北朝鮮高句麗系の人達で　大和高松塚古墳やキトラ古墳などのルーツではないかと議論されている。

2.　筑紫　吉野ヶ里弥生遺跡

背振の山を背に卑弥呼の時代の王都を髣髴とさせる楼閣と環濠　まさに王都を思わせる弥生の集落

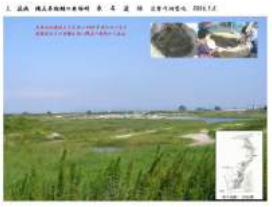
吉野ヶ里が背振山をバックに幾つもの楼閣が立ち並ぶこんな素晴らしい歴史公園になっているとは・・・・

まるで　映画のロケ地のセットを見るよう。楼閣に登って周囲をながめると眼下に広大な筑後平野が広がり、まさに王城。　卑弥呼の時代の繁栄がイメージされる。

この地の渡来系弥生人は福岡･山口に渡ってきた土井が浜人とは少し違って　大陸から直接やってきたのではないかと・・・・

3.　筑後　縄文草創期の貝塚群　　佐賀県　東名遺跡　巨勢川調整池

7000 年前　縄文の始まりの頃　もうここに集落があり、その頃の数多くの木製品・カゴ類などがおびただしい貝殻と共に出土



縄文時代の初めの 7000 年前頃この地は有明湾の海岸地帯の湿地帯。　ここには　幾つもの縄文草創期の貝塚があり、おびただしい貝類と共に湿地の泥の中に埋もれたおびただしい数の木製品やカゴ類が出土した

調査は今も続いていて、幸運にもどろどろの中からカゴを取り出す作業を見れました。佐賀平野を守る広大な遊水地の中　池の中に　沈んでしまうのか・・

背振山をバックに広大な佐賀平野がどこまでも田園地帯の青空が素晴らしい景色を作っていました

4. 菜畑　遺跡　　縄文晩期・弥生早期

大陸文化の先進地　唐津・「末盧国」　で日本最古の水田が出土した　　弥生時代の始まり

唐津市の丘陵地の山裾　市街地の中である。ここで鍬や石包丁・炭化米などと共に最古の水田跡が見つかった。

弥生時代の始まりである。今は新興住宅地の道路の下。復元水田に背丈の高い古代米が赤紫の稲穂を揺らしているのが印象的でした。

5.　壱岐への玄関口　呼子

呼子から壱岐へは　島伝い　数々の人達がこの海を行き来した

呼子は古代も今も壱岐・対馬の玄関口以前訪れた時は博多から。「島影の見えぬ玄界灘を本当に多くの渡来人が海をわたったのか ???」との疑問に思えました。

でも　呼子からは航路にずっと島影が見えて　この荒海を安心して渡れたろうと感じました。

壱岐への玄関口　呼子は佐賀県　壱岐は長崎県　長崎県から直接壱岐へは行けない。

今は呼子からフェリーで 1 時間ちょっと　博多から高速船で 45 分　近いもの。

6.　魏志倭人伝壱岐「一支国」の中心集落　原の辻弥生遺跡

日本の文化はみな　ここを通って伝来した

壱岐は一番高いところで 220m 海からみると本当に平坦な島に見える。ところが島に入ると魏志倭人伝にも書かれているごとく　小さな丘陵地が幾重にも島全体をおおう。魏志倭人伝に書かれた国で唯一王城の地が特定された「一支国」の王都　原の辻遺跡。　島の南東　かつては湿地であった周囲を丘陵地に囲まれた広い平地にあり、小さな岡を隔てて直ぐに東の海岸部で水路が通じている。原の辻には船着場があり、ここまで直接船が入ったという。

日本の文化はみなこの地を通って日本に伝来した。鉄の生産の出来ぬ日本へは大量に鉄素材が日本に持ち込まれたが、この地をかならずや　通ったろう。

今もこの原の辻遺跡は周囲を丘陵地に囲まれた田園の中にあり、発掘調査が続いている。

訪れた時にも　この遺跡の高台に祭祀の建物が復元中であり、また竪穴住居群や環濠の発掘調査が続けられており、学芸員の人に気楽にシートをあけて解説をしてもらえた。　　そのオープンさがうれしい。

「鉄」については　学芸員の人の話によると　あちこちで鉄器は数多く出土するが、鍛冶工房や製鉄炉の跡は不思議と出てこない。 原の辻にも鍛冶工房があったと考える向きもあるが、いまだ確証はないという。

竪穴住居群や環濠の発掘調査中の原の辻弥生集落遺跡

7.　壱岐の古墳群　を　訪ねて

大和王権の時代にも「一支国」の重要性は変わらない

多くの古墳が島の中央丘陵地に作られ　朝鮮半島と大和の交流を支えました。 古墳時代になっても　大陸・朝鮮半島との交流の中継地としての役割は重要性は変わらず。　しかし、ここを支配した首長たちはその本拠を原の辻から島の北部丘陵地に移し､そこに古墳を築いている。大和からの支配の高まりで大きな支配層の交代があったのかも知れぬ

8.　筑前　奴国の心臓部　月隈丘陵には数々の遺跡がある

1.　金隈弥生遺跡　弥生通期　348 基の甕棺墓に圧倒される
2.　板付遺跡　　縄文晩期の水田跡　環濠が今もきれいに残る

国の中心地　月隈丘陵周辺

500 に近い弥生人が眠る金隈遺跡

弥生の尺度　板付式土器　板付遺跡

御笠川の東岸を南北に連なる月隈丘陵　奴国の心臓部に 500 に近い弥生人が眠る金隈遺跡

御笠川の東岸を南北に連なる月隈丘陵は奴国の心臓部　その中央部に金隈遺跡がある。
北部九州弥生時代の特徴的な墓制である甕棺墓を主とする墓地跡。標高30mの丘陵上に、前期から後期にかけて甕棺墓 348 基、土壙墓・木棺墓 119 基、石棺墓
2 基が営まれていた。土井が浜人と呼ばれる渡来系弥生人 400 年間の墓。その甕棺墓の数に圧倒されるこの遺跡ではありませんがこの北部九州に眠る渡来系弥生人の時代識別から　弥生人の村で人口爆発が起こり、縄文から弥生の世界への移り変わりが「戦い」というよりも「融合」によってきたことがわかってきた。

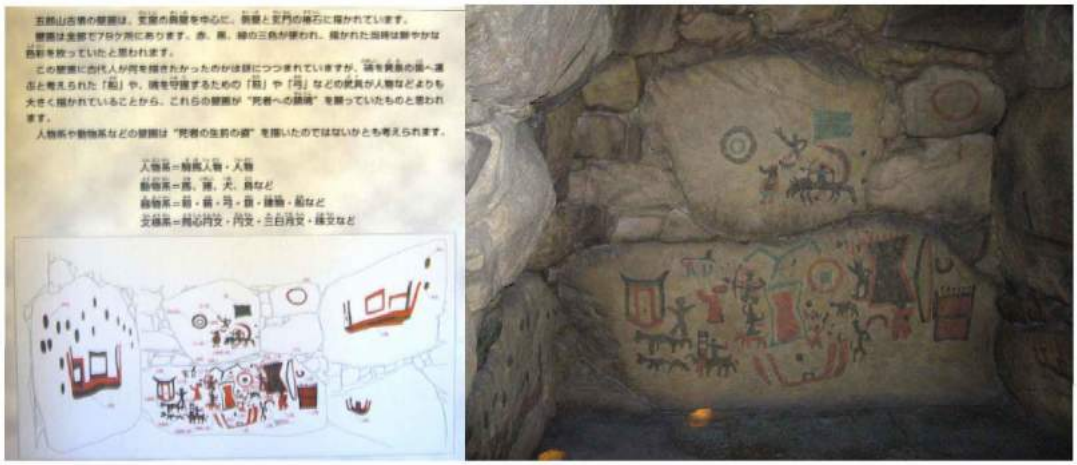
【参考】写真アルバム　PDF file

【北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・筑前・筑後・筑紫の遺跡を訪ねて】

北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・筑前・筑後を訪ねて　縄文の会　　2006.9.7、& 9.8、

1、筑紫　五郎山彩色古墳　6世紀　古墳時代

肥後菊池川流域の北　筑紫筑後川流域にも　彩色古墳を作った謎の渡来集団がいた



2、筑紫　吉野ヶ里弥生遺跡　背振の山を背に卑弥呼の時代の王都を驚嘆とさせる楼閣と環濠

筑後　吉野ヶ里歴史公園　2006.9.7.

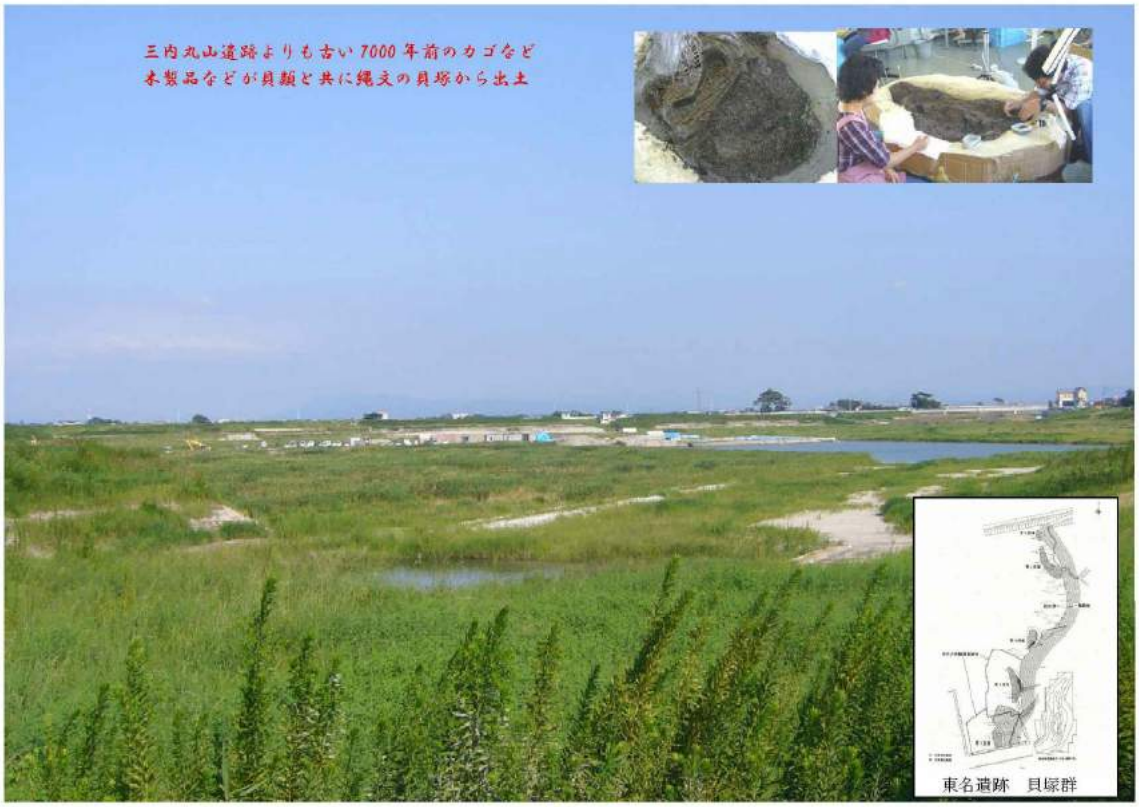
吉野ヶ里遺跡　南内郭と集落を取り囲む環濠

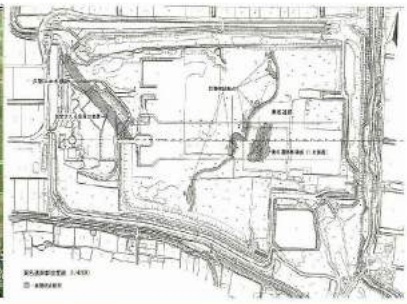
筑紫　吉野ヶ里歴史公園　吉野ヶ里弥生遺跡

吉野ヶ里遺跡　北内郭　祭祀の場

吉野ヶ里遺跡　倉と市

3、筑後　縄文草創期の貝塚群　東　名　遺　跡　巨勢川調整池　2006.9.8、





出土したカゴを土ごと切り出して洗出し作業と出土した縄文のカゴの一例

出土した貝類

黒曜石　剥片

4、菜　畑　遺　跡 縄文晩期・弥生早期　大陸文化の先進地　唐津・「末盧国」　で日本最古の水田が出土した

大陸・朝鮮半島どの文化の先進地「末盧国」の海岸に近い山裾に縄文時代の水田跡　今は都市計画道路の下に
でも　すぐそばの末盧館　復元水田では背の高い古代米が赤紫の稲穂をつけていました

5、壱岐への玄関口　呼子　2006、9.7.&8.

呼子海岸の夜明け　2006.9.8.

佐賀県　呼子の朝市　　2006.9.8.

6、 魏志倭人伝 壱岐「一支国」の中心集落　原の辻弥生遺跡　　日本の文化はみな　ここを通って伝来した

呼子からフェリーで島伝いに約1時間　呼子からは常に島影を伝いながら、海峡を渡れる　博多だと双は行かない
平野部は小さく、島のほとんどが小さな丘陵地で埋め尽くされ、意外と平地は少ない　島の最高点　岳の辻で標高 212m　平坦な島である
原の辻は島の南東部にある平地で、周囲を丘陵地に囲まれた島最大の平地部
弥生前期末から古墳時代に至る大集落　朝鮮半島と倭国の交流で栄えた一支国の中心・交易都市がある

壱岐　原の辻弥生遺跡　周囲を丘陵に囲まれた魏志倭人伝「一支国」の王都　朝鮮半島と倭の交易都市

8月8日　原の辻遺跡では　祭祀の建物群の復元　ならびに　住居跡　環濠跡の発掘がつづけられていました

7、壱岐の古墳群 を 訪ねて

大和王権の時代にも「一支国」の重要性は変わらない
多くの古墳が島の中央丘陵地に作られ　朝鮮半島と大和の交流を支えました

■ **カラカミ遺跡**　原の辻遺跡と並ぶ壱岐弥生の中心集落　祭祀の集落の性格

カラカミ神社のある丘陵の西側を南北にめぐる溝状遺構（環濠）が確認されており，そこからは弥生土器や石器をはじめ，占いの道具であるト骨（ぼっこつ）や，朝鮮半島の三韓土器，楽浪系の土器など，多数の遺物が出土しています。

■ **掛木古墳**　6世紀末
くりぬき式家型石棺の円墳

■ **鬼の窟**　6世紀後半
横穴式石室の　円墳

■ **双六古墳**　長崎県最大の前方後円墳　6世紀後半

8、筑前　奴国の心臓部　月隈丘陵には数々の遺跡がある

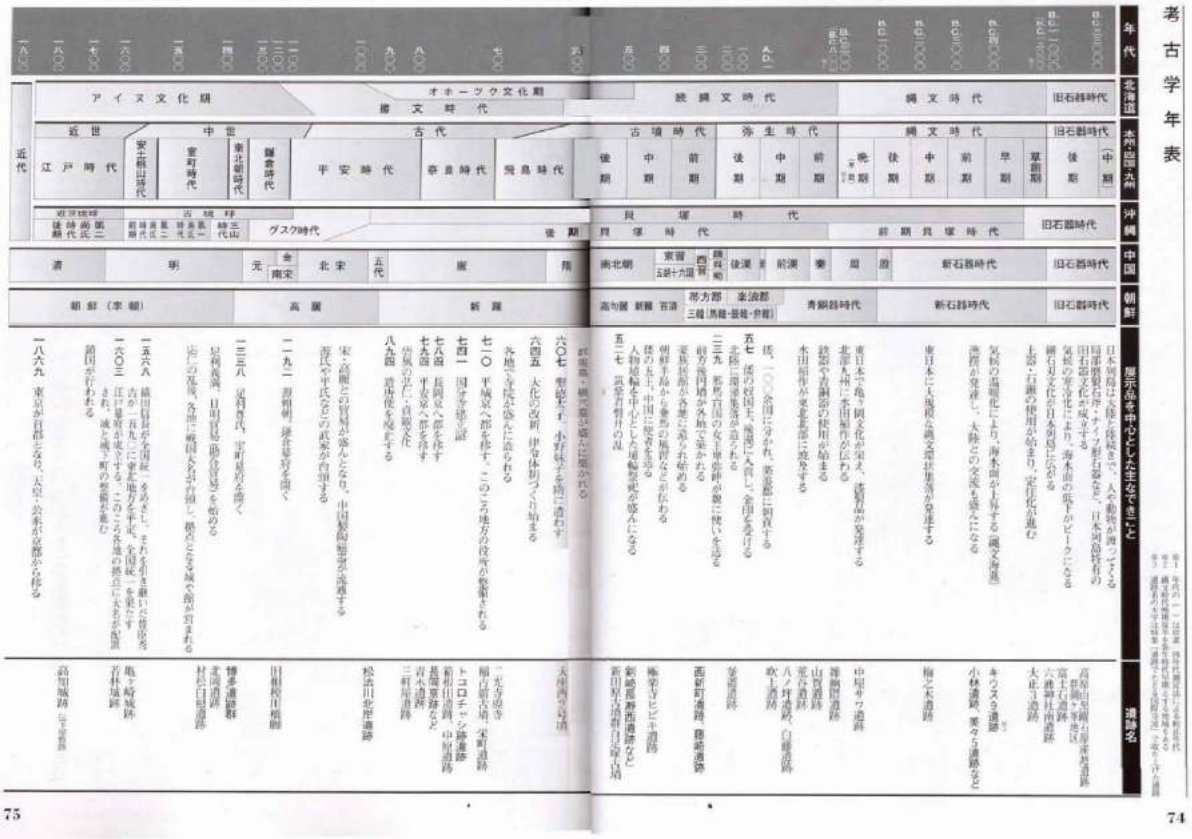
1、金隈弥生遺跡　弥生通期　348基の甕棺墓に圧倒される
2、板付遺跡　　縄文晩期の水田跡　環濠が今もきれいに残る

御笠川東岸を南北に月隈丘陵がつらなる　　縄文晩期・弥生の環濠集落　板付遺跡　弥生人の大共同墓地　金隈遺跡

■ **金隈弥生遺跡**　500に近い弥生人が眠る共同墓地　まだその集落はみつかっていないという・・

御笠川の東岸を南北に連なる月隈丘陵は奴国の心臓部　その中央部に金隈遺跡がある。
北部九州弥生時代の特徴的な墓制である甕棺墓を主とする墓地跡。標高30mの丘陵上に、前期から後期にかけて甕棺墓348基、土壙墓・木棺墓119基、石棺墓2基が営まれていた。
土井が浜人と呼ばれる渡来系弥生人400年間の墓。その甕棺墓の数に圧倒される

補足資料　考古学年表　　文化庁編　「発掘された日本列島」2006　より



「水田稲作と鉄と倭国」 弥生の時代を作った渡来人たち

写真アルバム　北部九州　魏志倭人伝の世界 「壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて」　2006.9.7.&9.8.

gishi00.htm　2006.10.5.　by Mutsu Nakanishi

縄文・弥生時代から魏志倭人伝・卑弥呼の弥生後期　そして古墳時代とつながる日本の黎明期
大陸からの日本列島への入りであった北部九州
北部九州に鉄と共に水田稲作が伝わり弥生の時代が始まり、数々の渡来の人達がやってきて日本の国づくりがはじまった

■ Country walk 北部九州　魏志倭人伝の世界
「壱岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて」

1. 筑紫 五郎山彩色古墳　6世紀　古墳時代の円墳
2. 筑紫 吉野ヶ里弥生遺跡　弥生時代　前・中・後期の集落
3. 筑紫 東名遺跡　佐賀県巨勢川調整池　筑後　縄文草創期の貝塚群
4. 唐津 菜畑遺跡　縄文晩期・弥生早期　弥生の始まり　最古の水田跡
5. 壱岐への玄関口 呼子
6. 壱岐 原の辻弥生遺跡　魏志倭人伝「一支国」の中心集落
7. 壱岐の古墳群を訪ねて
8. 筑前 金隈遺跡　奴国の心臓部　月隈丘陵

■ 写真アルバム　PDF file
【北部九州　魏志倭人伝の世界　壱岐・筑前・筑後・筑紫の遺跡を訪ねて】

【完】

5、 甲斐・信州国境地帯　八ケ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて　2006.10.6.-10.

縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた

北杜市周辺から見た山々　左: 南アルプス鳳凰三山・甲斐駒　中央:八ケ岳　右:茅が岳　2006. 10. 10.

1、　日本人の心の故郷といわれる縄文集落がそっくりそのまま見つかった
　　茅ケ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる
2、　八ケ岳　清里　清泉寮に泊まって
3、　縄文の黒曜石原産地遺跡　長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる
　　縄文石器材料「黒曜石」を日本各地に配っていた霧ケ峰・中山峠

左:梅の木縄文遺跡　　中央:八ケ岳清里 清泉寮周辺　　右:縄文の黒曜石鉱山星屑峠原産地遺跡

今年の初め、新聞に茅が岳山麓で祖先を祭る広場を取り囲んで住居が建ち並ぶ縄文の集落がそっくりそのまま出土したという。 弥生が戦さの時代といわれるのに対し、戦さのない素朴な日本人の心の故郷といわれる縄文の象徴である。常々一度しっかりそんな村を見たいと思っていた集落が今なら見られる。

しかも　出土したところが縄文のビーナスなどが出土した八ケ岳山麓に続く東隣の茅が岳山麓。この山の北側　霧ケ峰・中山峠には糸魚川の翡翠と共に日本各地にその痕跡が見られる黒曜石の原産地である。車がないと中々廻れぬところ。

　家内に清里に泊まってというと行くという。珍しく意見一致で甲府にいる知人や東京の娘一家を訪ねるスケジュールも入れて10 月 6 日の朝神戸を車で出発。あいにく雨であるが　名神・中央道経由で諏訪へ。伊那谷を抜けるあたりでは本降りでこの日は山の景色を楽しめなかったが、東京の帰り再度訪れた時は快晴。　素晴らしい山の景色を楽しめました。

縄文の現代集落がそっくりそのまま出土
山梨県 北杜市　梅之木縄文遺跡
縄文のモデル村 全面保存できる？

茅が岳をバックに東には富士山がぽっかり浮き、正面に広がる台地の眼下には西から甲府盆地に流れ込む釜無川沿いの狭い河川平野に韮崎・北杜の街並。そしてその向こうに南アルプスの荒々しい峰々が壁のように建ちはだかる。西に眼を転じると八ケ岳がどっしりと座っている。

縄文の集落がそっくりそのまま出土した梅ノ木縄文遺跡　八ケ岳・茅ケ岳山麓　山梨県北杜市

梅ノ木遺跡はそんな茅ケ岳の台地の上　リンゴ林やぶどう園にかこまれて　広場を中心に竪穴住居跡が建ち並んでいました。「縄文人はこんなすばらしい場所に住んでいたのだ」としばし、周りの景色に見とれていました。

また早朝の八ケ岳山麓清里はもう秋。　夜がしらみ始めた早朝　さくさくと落ち葉を踏みしめて歩く白樺の森に聖アンデレ教会の鐘の音が響いていました。

やっぱり　一泊して早朝歩く幸せ　素晴らしい散策でした。

初秋　八ケ岳山麓　清里の朝　　2006.10.6.

また、八ケ岳と霧ケ峰の間の白樺湖の横　信州峠を越えると数々の縄文人が黒曜石を求めて移り住んだ山に囲まれた長和町鷹山。　熊が出ると脅かされながら静かな林の中を登って星糞峠へ。峠の南の山の斜面には 100 を越える幾つもの縄文人が黒曜石を掘って出来た窪地が林の中に散らばり、其の一つ一つに野球ボールほどの番号標識が付けられて点在。ふと足元の土を凝視するとキラキラ漏れ来る日差しに光る黒曜石の屑。星糞峠の名前そのままに林の中に黒曜石が点在していました。

鈴を貸してくれた黒曜石ミュージアムの人達はなかなか帰ってこないので　随分心配してくれたようですが、林の向こうに見え隠れする霧ケ峰の山並みを眺めながら　縄文人が黒曜石原石を掘り出した鉱山跡に眼を凝らして地面を見ながら歩き回りました。

信州　鷹山星糞峠　縄文の黒曜石鉱山　星糞峠黒曜石原産地遺跡　2006. 10. 7.

この信州から日本海へ出たところの糸魚川は縄文の翡翠の原産地。この翡翠とこの地の黒曜石が対となって遠く三内丸山遺跡にまで運ばれている。誰もいない静かな山中　木々が点在する山の斜面の林の中に今もキラキラと黒曜石のクズが輝いていました。
車でないと本当に便利の悪い場所ですが、「星糞峠」の名前そのままに誰もいない神秘的な空間でした。

一度ゆっくり、信州の山を眺めながらのゆったりした旅をしたかったのですが、そんな満足を達成させてくれた甲斐・信濃国境　縄文を訪ねる旅　「甲斐　茅が岳山麓・八ケ岳清里・信濃霧ケ峰　星糞峠」の旅の写真をアルバムにまとめました。

　諏訪湖・諏訪大社もすぐ近くでしたが、今回はたずねることができませんでした。
この諏訪湖周辺は湿地の葦原に吸い寄せられた鉄が堆積して作られた褐鉄鉱・高師小僧が豊富にあり、これを原料として古代たたら製鉄の前に製鉄が行われた可能性が多くの伝承で伝えられ、諏訪大社も製鉄の民との関連が在るという人もいます。そして　ある本にはすでに諏訪・信濃では縄文時代には褐鉄鉱・高師小僧を利用した製鉄が行われ、その様相を縄文の火炎土器そして製鉄炉が円筒埴輪だとして研究をしている人もいます。
にわかには信じられませんが、これらの鉄素材がひょっとして１０００℃近傍で反応して溶けるなら、可能性があるかもしれない。そうすれば、日本各地に残る伝承の多さから日本の古代が変わってしまうと・・・・・
梅ノ木遺跡が出土した北杜市にも古墳時代の鉄製品の出土があるなど古代鉄の痕跡があると北杜市の埋蔵文化センタで聞きましたが、次回です。

1、日本人の心の故郷といわれる縄文集落がそっくりそのまま見つかった

茅ケ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる

1.1、　土砂降りの雨の中　北杜市　梅ノ木縄文遺跡を訪ねる　　2006.10.6.

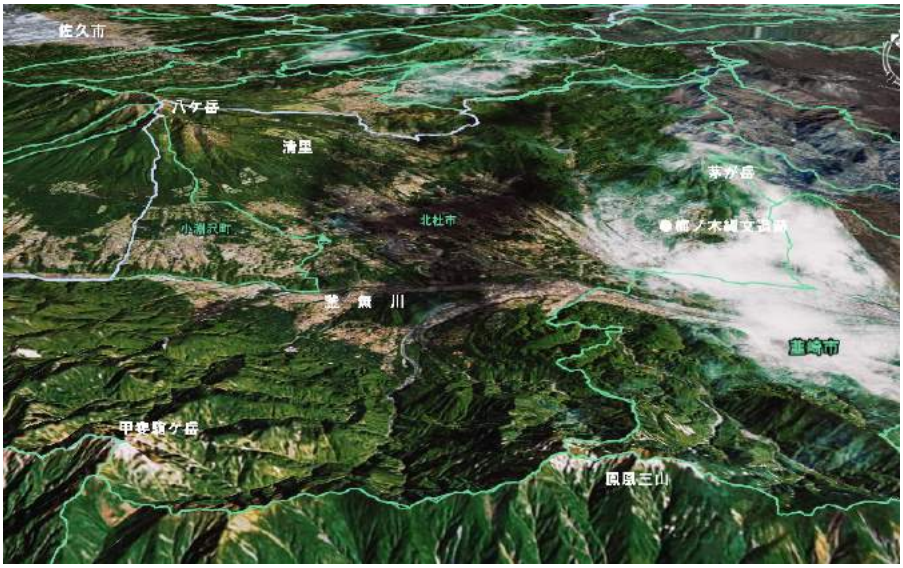
山麓に梅ノ木縄文遺跡を抱く茅が岳　　2006.10.6.

10.6.午後　土砂降りの雨　山口で一緒に仕事した仲間を北杜市の隣の南アルプス市に訪ねる。

甲府のぶどう・リンゴやももなど果樹園のど真ん中に住んでいて、本当にうらやましい。

「天気がいいとアルプスが素晴らしい。なんで　よりによって　雨の日に・・・」と。

周囲の山々や果樹園の話を本当にうらやましく聞いて、天気の良い日を選んで　東京からの帰りにもう一度来ようと・・・



縄文遺跡の宝庫　八ケ岳・茅が岳周辺図

「雨の中　人もいない高原　茅が岳広域農道の入り口が難しいし、遺跡の場所をよう見つけんやろから」と事前に見に行って　梅ノ木遺跡　近くまで車で先導して送ってくれた。

甲府の南側に隣接する南アルプス市から釜無川を渡って　うっすら雲の中に八ケ岳頂上部に雲がかかった茅が岳の南山麓の台地に付けられた茅が岳広域農道に入り、畑が広がる高原台地の上をつっ走しる。

地図には印を入れてきたが、目印になる山々が全く見えないが、３０分ほどで、山梨県フラワーセンタの前をすぎると田畑の中に左右にリンゴ園が点在する北杜市明野町の梅ノ木遺跡周辺につく。

明野の集落は台地の下で、リンゴ直売所が少し手前にあっただけで、周囲は広い畑が続き、畑の奥　茅が岳の山裾にわずかに人家が見える。

「晴れた日には山々がこう見えて・・・」と教えてくれるが、西の八ケ岳も南の南アルプス連峰も全く見えない。

雨の中　周囲が全くみえない茅が岳山麓の丘陵地　北杜市梅ノ木遺跡周辺　2006.10.6.

畑地の北側　茅が岳がみえるはずであるが、全く見えず

「この広域農道のそばの砂利道を山の方へ 500m ほど入ったあたり、向こうにプルドウザが見える辺が遺跡のはず」　こんな雨の中　物好きな・・・と友達は言葉にはださないが、笑いながら帰ってゆく。

茅ケ岳山麓　丘陵地　梅ノ木遺跡周辺　　2006.10.6.
写真奥　雲の中に八ケ岳の裾野がうっすら見える

とにかく　新聞や考古学速報新発見 2006 に載った航空写真のイメージを頭に田畑のあぜ道を入ってゆくが、ますます雨が強くなって確信が持てない。
結局、奥の茅が岳の山裾の家を訪ねて、おばさんの車に先導してもらって遺跡へ。

雨に煙る梅ノ木縄文集落遺跡　全景　北側より

先ほどブルドーザーのところからあぜ道を北に入ったのですが、その南側の草原が梅ノ木遺跡だという。

良く見ると　広い草原のところどころにブルーシートが被せてある場所があり、ぐるっとそのブルーシートをつなぐと真ん中が広場で、ブルーシートがかけられている場所は竪穴住居跡らしい。何とはなしに、広場を取り囲む縄文の集落跡であることが判る。

雨に煙る梅ノ木縄文集落遺跡　全景　南側より　　2006.10.6.

雨に煙る梅ノ木縄文集落遺跡　全景　北側より

この草原右手には茅が岳から草原に沿って　雑木林が見える。そこが谷になっていて、雑木林の中に入ると狭い谷の崖下に、ブルーシートがかけられ、ここが梅ノ木遺跡の水場・作業場の発掘現場と知れる。

　ひとっ子一人いない広場の真ん中に立つとグルリと周りが見渡せるが、土砂降りの雨でまったく　周りの状況がよくわからない。

「縄文の広場を中心に祖先と一緒に暮らした縄文の村」
赤坂憲雄さんの話に引き込まれて何度も聞いた縄文の集落半信半疑だったのですが、広場の中央に立って、本当だったんだとグルリと体を回して、ブルーシートを一周。

ブルーシートのかけられた遺跡の水場と作業場
集落跡のある台地西に隣接した谷間

晴れていれば　其の眼前には　茅が岳・南アルプス・八ケ岳の大パノラマ　昔は違っていたでしょうが、ぶどうが実り、リンゴが赤い実を付けている。晴れていれば、どんなに素晴らしい景色だったろうと・・・・。

梅ノ木縄文集落遺跡　全景　(10.10.晴れの日に撮影した遺跡)

　絶対にもう一回帰りに立ち寄ろう。　家内に言うと同意見。
それにしても　雨の中　友人も　訊ねたおばさんも　よう　連れてきてくれたわ・・・と感謝です。
　まだ　発掘が続いているので、この先どうなるかわからないが、そっくりそのまま残してほしい。

八ケ岳山麓側から茅が岳　　2006.10.7.

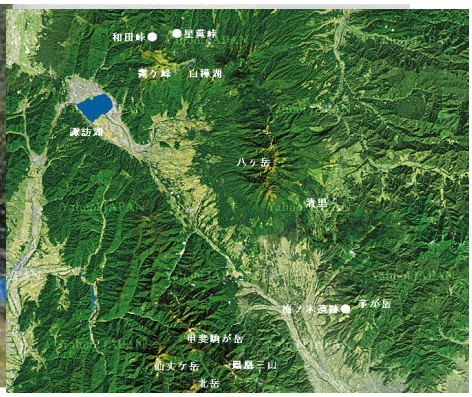
土砂降りの雨の中　３０分ほど　草原をあちこち歩きまわって、また　広域農道をさらに西へすぐ西側の八ケ岳山麓へトラバースして　夕方の清里へ。
八ケ岳の山麓側からは今まで、今雨の中見てきた梅ノ木遺跡を懐に抱く茅ケ岳全体が始めてその大きな山体を現す。大きい山である。
この茅ケ岳は「日本百名山」深田久弥が最後に登って、ここでなくなった山でもある。
東京からの帰りにもう一度きて　アルプスを梅ノ木遺跡から見よう。
そういいながら、約３０分ほどでもう暗くなりかけたポールラッシュの開いた清里へ
清里の聖アンデレ教会　昔銚子で世話になった武藤牧師を訪ねたあと、一度泊まりたかった　清泉寮に着いた時にはもう薄暗くなっていました。

平日なのでディナーは数組だけ　ゆったりとディナーを楽しめる。ワインを訊ねると「茅ケ岳」がお勧めという。　すっかり　うれしくなって
それで乾杯。山の静かな夜を楽しみました。

八ケ岳　清里　夜の清泉寮　「茅ケ岳」ワイン

1、2、　　縄文集落跡がそっくり出土した北杜市梅ノ木縄文集落跡遺跡　概　要

10.10.　北杜市明野町埋蔵文化財センターでいただいた資料・写真より



縄文集落跡がそっくり出土した北杜市梅ノ木縄文集落跡遺跡

素晴らしい晴天の 10.10.　　梅ノ木縄文遺跡を再度訪れ、予想通り、遺跡からは素晴らしい南アルプスや八ケ岳の大パノラマを見ることが出来ました。また、横の谷では地元の人達による台地の上から作業場・水場へ至る縄文の道の発掘調査が行われていました。

　ちょうど昼休みのおばさんたちに話しかけ、この台地の下にある北杜市埋蔵文化センターに行けば、空から見た写真やら資料があると聞いて訪れ、見せていただいた写真やいただいた資料で梅ノ木縄文遺跡の概要をまとめました。

梅ノ木遺跡は約 5000 年前縄文中期　約 500 年続いた集落跡遺跡で、丘陵地の台地に約 3ha のひろがりがある。180 軒以上の竪穴住居が広場を取り囲むように直径約 100 メートルの環を描いて建ち並ぶ環状集落がある。すぐ隣の川が流れる小さな谷には水辺の作業場があり、集落から、その水辺の谷への縄文の道が見つかっている。
集落全体・道・水辺の作業場がセットになった縄文の村全体像が見える貴重な遺跡である。

梅ノ木遺跡　全体の略図

この遺跡は八ケ岳連峰のすぐ南東側に位置する金が岳・茅が岳の西麓　標高 800 メートルの丘陵地の上に　　あり、広々とした原生林を切り開いて、たった 2 軒の住居がつくられ、この梅ノ木集落 500 年の歴史が始まったという。

眼前のなだらかな丘陵地の向こうには南アルプスが荒々しい峰々が連なり、其の手前　丘陵地の下　南アルプスとの間を北西諏訪湖側からから南東へ　八ケ岳・茅が岳の山裾を縫って　甲府盆地に流れ込む釜無川に沿って狭い河川平野が広がり、そこを西信州側の茅野市をこえて、甲斐側へ中央高速道路・中央線が走り、北杜市・韮崎市そして甲府市が並んでいる。

また　すぐ西には巨大な八ケ岳が雄大な裾野を広げ、東側　延々と続く丘陵地の向こう遠くには富士山がぽっかり浮かび、素晴らしいパノラマを繰り広げている。

集落の北西側の谷には金ケ岳から流れ出る小川「湯沢川」があり、現在は涸れ沢のようになっているが、当時は一年を通じて水が流れ、急斜面にはさまれてはいるが平地面もあり、絶好の水場になっていたと考えられる。集落から水場へ急斜面を降りてゆく縄文の道があった。

梅ノ木遺跡　水場の谷へと続く縄文の道

この梅ノ木遺跡は以前から縄文遺跡として知られ、周辺の畑地は江戸時代後期に開墾されたもので、畑地では土器や鏃が拾えたという。

2001 年度より、畑地帯総合整備事業のための事前発掘調査が行われ、2003 年 6 月に環状集落がほぼ完全な形で残っていることが判った。それで、遺跡が分布する約 2ha を 2003 年から 2007 年までの予定で確認発掘調査が今進行中である。

この過程でそっくりそのまま出現した集落は長径 40 メートル　短径 30 メートルほどの楕円形の広場を竪穴住居跡が取り囲み、500 年ほどの存続の間に建て替えが繰り返され、一時期に存在した戸数は数軒から 10 軒程度と考えられている。墓や貯蔵穴なども発見されている。

北側からの梅ノ木遺跡の全景　2006.10.10.

山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」より　2006.5.1.

梅ノ木遺跡では井戸尻 3 式・曽利Ⅰ～曽利Ⅴ間での 6 式の土器が出土しており、この土器から縄文中期約 500 年続いたムラの様子が浮かび上がってくる。この地方の土は酸性土で墓がとこにあったのかはよくわかりませんが、土坑の調査などから、竪穴住居の間にあったとみられ、死者とが生きている人たちの竪穴住居と一緒に広場を取り囲んでいたと考えられている。

また、18 号住居から出入り口に埋甕が 2 つ埋められ、其の横に平たいが立ち、さらに壁に 2 本の石柱が立てかけられている。　埋甕は幼くして死んだ子供の墓あるいはお産の後産を入れて子供の無病息災を祈ったものと考えられ、住居に持ち込まれた石柱も何か祈り・祭の道具だったのかもしれない。

死んだ祖先や子供たちと同じ空間の中で縄文人が暮らしていたことがよくわかる。

また　珍しい人面の吊り手土器や土偶も出土している。

集落の北西の沢にある水辺の作業場へ降りてゆく縄文の道が昨年秋確認され、現在も調査が続いている。

この沢への道は集落から水辺まで標高差 17～18m。急な斜面に「土木工事」で斜面を掘り下げ平らにした道が 70m にわたって続いている。水辺には平らな石が敷き詰められ、焼けた土も確認され、この作業場で動物の解体や土器などが焼かれたと考えられている。

集落から水辺の作業場へ続く縄文の道　　右上奥が作業場　2006.10.10.

山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」より【2】　2006.5.1.

山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」より【2】　2006.5.1.

「戦いと穢れを知らず　祖先と一緒に暮らす縄文のムラ」「日本人の心の故郷　縄文」
広場・墓場を中央にそれを取り囲むように住居が広がる。　・・・・・
一方　弥生の時代は「戦さの時代」集落は住居を取り囲む環濠でしっかり守られ、村の中には高い望楼が立っている。祖先の墓は環濠の外に遠ざけられている。
何度も赤坂憲雄氏の講演でいっぺんにフアンになり、何度となく聞いた縄文のムラの話であるが、そんなきれいな環状集落を是非一度は見たいと思ってきました。三内丸山には墓の道があり、墓の道を通って集落に入るが、集落が大きすぎて　広場を取り囲むといったイメージがなかなか持てなかったが、まさにしっかりと環状に広場を取り囲む竪穴住居群がありました。

ましてや　弥生の時代は「鉄」の時代。　鉄・鉄文化が戦さを生んだのか・・・つい最近　鉄が集積され、損傷人骨が多数出土した鳥取県の弥生時代後期の青谷上寺地遺跡には高い望楼があったと奉じられている。
日本人にはこの縄文・弥生の 2 つの気質を潜在的に常に持ち合わせている。願わくは　縄文の知恵の中で平和に暮らしたい」との気持ちがある。

縄文の集落と弥生の集落の比較

梅ノ木遺跡が出土した茅が岳山麓から八ケ岳山麓へと続く丘陵地は縄文遺跡の宝庫。
この梅ノ木遺跡のある北杜市にも数多くの縄文遺跡があり、　北西の八ケ岳山麓には縄文中期の代表的な遺跡　井戸尻縄文遺跡群　さらに北西の茅野市には縄文のビーナスが出土した棚畑遺跡や双環状の大集落である尖石縄文遺跡があり、また　八ケ岳を北に越えて裏側の霧ケ峰・鷹山星糞峠には日本各地に運ばれた黒曜石原産地遺跡がある。
これらの遺跡と梅ノ木遺跡との結びつきなどは現状まだよくわかっていないが、梅ノ木遺跡でも黒曜石が出土しているといわれ、今後これら周りの縄文遺跡との関連も検討されるだろう。
また、この梅ノ木遺跡のある浅尾地区では　遺跡を含む北側の谷間に廃棄物最終処分場建設の計画があり、賛否両論で揺れ動いていたが、この処分場を北側にずらし、規模を縮小して建設をスタート。
遺跡調査は 2007 年に完了し、その後　国の史跡指定を受けて歴史公園として整備されるスケジュールが進められていると聞きました。
　ぜひとも　いらわずに　今の景観がそのまま残されれば・・・・と願っている。

■　参考資料

北杜市教育委員会　平成 17 年 12 月 17 日　梅之木遺跡見学会　資料
山梨考古 101 号「梅ノ木遺跡から見た縄文のムラ」　2006. 5. 1.
空から見た梅ノ木遺跡写真は北杜市埋蔵文化財センタで接写させていただいた

1.3　再度　梅ノ木縄文集落跡遺跡を訪れて　梅ノ木縄文遺跡アルバム

茅ケ岳山麓を走る広域道より　茅が岳全景　北杜市　フラワーセンタ周辺　2006.10.10.

10 月 10 日　快晴　素晴らしい天気である。東京を朝早く出て　再度中央高速道を通って北杜市へ
前回　訪れた時には　全く周囲の状況が見えなかった梅ノ木遺跡周辺も素晴らしい景色が見られるだろうと期待が膨らむ。韮崎のインターチェンジで出て　6 日に仲間が教えてくれたとおりに茅ケ岳の広域農道に入り、茅が岳の山裾をまきながら、丘陵地を登ってゆく。
丘陵地の上は畑地とリンゴ林やぶどう園が点在し、その向こうに南アルプスが豪快な峰々を連ねている。
まずは車を止めて、この素晴らしい南アルプスのパノラマに見入る。

南アルプス　左　鳳凰三山　右　甲斐駒ケ岳　北杜市茅が岳山麓の丘陵地より　2006.10.10.

もう　その高さに圧倒されて　しばし見入っていました。かつては　あの上に立ったのですが、もう高くてよう登れない。先日　仲間が自慢していた素晴らしい山の景色　圧倒的な高さです。
　元の道に戻ってすぐ　赤い実をつけたリンゴが目につく。直売所に入って　リンゴを試食して　孫にリンゴを

送って。　真っ赤に実ったリンゴ林を見るのは久しぶり。
本当に気持ちがいい場所である。

リンゴ畑の後ろに茅ヶ岳が見える北杜市梅/木遺跡周辺　　2006.10.10.

リンゴ園の所からものの５分ほどで　梅/木縄文遺跡。
3 日前にきた時とは全く違った光景。茅が岳をバックに東には富士山がぽっかり浮き、正面に広がる台地の眼下には西から甲府盆地に流れ込む釜無川沿いの狭い河川平野に韮崎・北杜の街並。そしてその向こうに南アルプスの荒々しい峰々が壁のように建ちはだかる。西に眼を転じると八ケ岳がどっしりと座っている。
「縄文人はこんなすばらしい場所に住んでいたのだ」としばし、周りの景色に見とれていました。

南側から梅/木縄文遺跡　集落跡の向こうに聳える茅ヶ岳　2006.120.10.

梅/木縄文遺跡　集落跡　全景　北側より　　2006.120.10.

南西側

中央広場

南東側

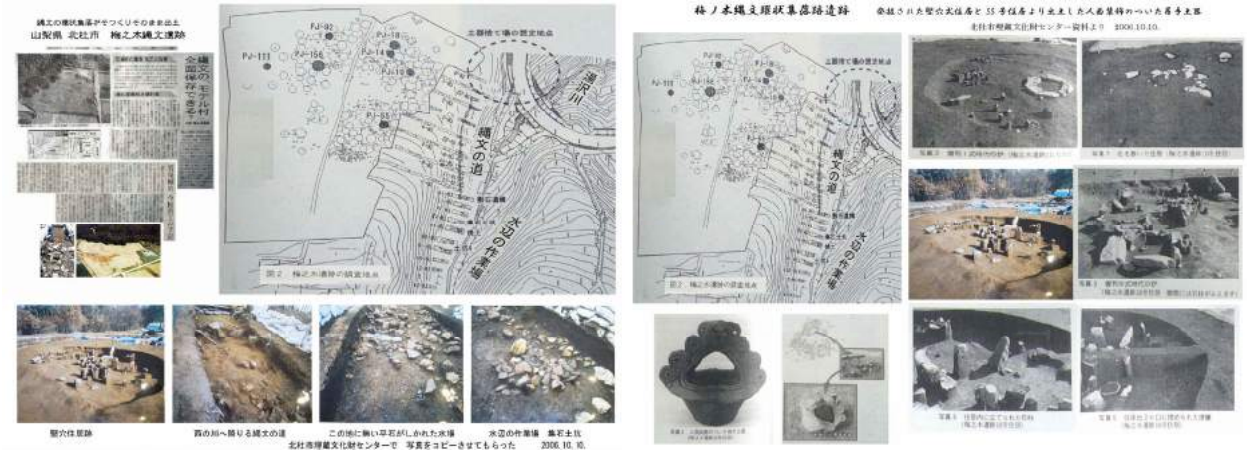
南側

西　八ケ岳

中央　南アルプス

東　富士山

梅ノ木縄文遺跡　集落跡　全景　　2006.120.10.



集落跡に隣接する林の中に入ると急な斜面の下で発掘作業が続けられていて、集落から水場に至る縄文の沢の道がかおを出していました。

集落から水庭・作業場に下る縄文の道　2006.10.10.

発掘当時の水場へ下る縄文の道　　北杜市埋蔵文化財センター資料より

やっぱり　再度立ち寄ってよかった。
大満足の梅/木縄文遺跡でした。
また、沢で発掘調査をつづけていたおばさんたちに会えたのもラッキー。　リンゴ園のところから下に降りていけばすぐに埋蔵文化財センター。　気楽に色々教えてもらえると。
　本当に遺跡の空からの写真や資料などをだしていただき、教えてもらえました。
　環状の縄文集落がそっくりそのまま見られるなんて、本当にそっくりそのまま残してもらいたい遺跡です。

「縄文の心を映す」といわれる円環・サークル
　秋田大湯や青森・小牧野遺跡など東北・北海道のストーンサークル　北陸のウッドサークル
　北海道キウスの周堤墓群　千葉の加曾利貝塚　そしてこの八ケ岳・茅ケ岳山麓梅/木遺跡の縄文の環状集落
縄文人たちの生活の証ではあるが、現代の眼でその「縄文の心」を探ってみたいものである。

　蛇足ながらリンゴ園の横道を茅が岳の方に入ったところにワイナリーがあり、食事が出来るのをみつけていましたので、そこで昼食しようと・・・。行ってびっくりしたのですが、　このワイナリーが清里で梅/木遺跡の話をしながら飲んだ「茅ケ岳」ワインのワイナリー。
三内丸山ではニワトコで酒を作っていたといいます。
この梅/木遺跡ではどうだったのでしょうか・・

006.11.18.　梅/木遺跡を訪ねたときのことを思い出しながら
2006.11.18.　Mutsu Nakanishi

注；この Country walk　和鉄の道　製鉄遺跡探訪とは少し離れていますが、三内丸山遺跡・ストーンサークルなどと同様鉄以前の縄文の流れを知る上で重要と思って、和鉄の道にも収録しました。

中央高速道より八ケ岳　富士見市付近

中央高速道　伊那周辺より　南アルプス連峰

2、 八ケ岳　清里　清泉寮に泊まって　　白樺が美しい秋の清里　アルバム

初秋　八ケ岳山麓　清里　　清泉寮にて　2006、10、7、朝

早朝の八ケ岳山麓清里はもう秋。　昨日の雨も上がって　青空が広がりだした 7 日　夜がしらみ始めた早朝　さくさくと落ち葉を踏みしめて歩く白樺の森に聖アンデレ教会の鐘の音が響いていました。
やっぱり　一泊して早朝歩く幸せ　素晴らしい散策。　其の時のアルバムです。

3、 縄文の黒曜石原産地遺跡　長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる
縄文石器材料「黒曜石」を日本各地に配っていた霧ケ峰・中山峠

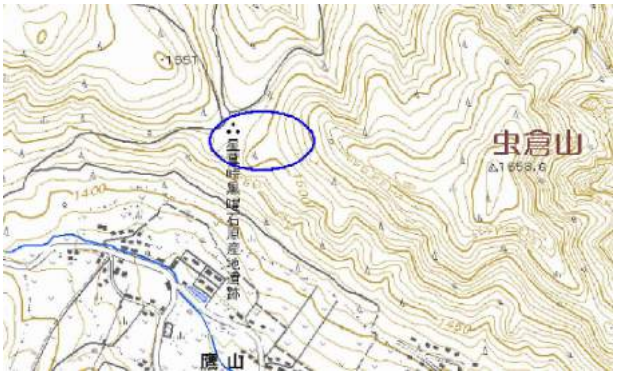
縄文の黒曜石鉱山　長和町鷹山　星糞峠黒曜石原産地遺跡　　2006. 10. 7.

10 月 7 日朝　心配した昨夜の雨もやみ、雲はあるものの日が差している。予報によれば山梨県側は晴れるが、信州側はまだ雨が残ると。

今日は日本各地に運ばれた信州・霧ケ峰の黒曜石の原産地　縄文の黒曜石を見に行く。

黒曜石は切れ味の鋭いナイフや鏃・槍先など縄文の主要道具の原石で、北海道上川「白滝」信州「霧ケ峰・中山峠」そして「隠岐」など限られた産地でしか出土せず、「糸魚川」の翡翠などと共に縄文時代の主要な交易品で、是非一度自然の中に在る原石をみたいと、北海道の上川にもトライしたのですが、雪で行けずで、それならば、信州で・・・と思っていた場所である。

中山峠は中山道の諏訪・甲州側から信州へ入る交通の要衝であり、茅野・諏訪から霧ケ峰・美ヶ原へと続くポピュラーなハイキングコースで、信州には何度も行きましたが、私は足を踏み入れたことがない場所でした。

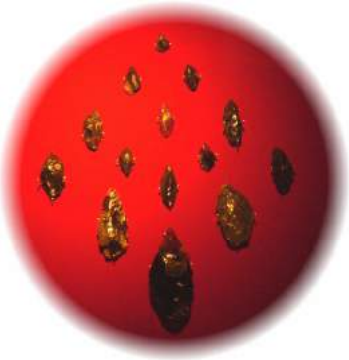


山のガイドブックにも「八ケ岳や霧ケ峰　山道を歩いているとところどころに今も黒曜石が落ちている」と書いてあるのを知って、信州へ行ったら今度は是非霧ケ峰へ足を伸ばそうと・・・・。

インターネットで調べるとその霧ケ峰周辺の長和町　鷹山の星糞峠はそんな縄文人が長年にわたり黒曜石を採取した

鉱山でその鉱山遺跡が「黒曜石原産地遺跡」として保存され、また、鷹山には「黒曜石ミュージアム」明治大学の黒曜石研究センタがあり、今も調査を続けていることが知れた。また、長和町のインターネット地図には点線の山道が星糞峠を通って山についているし、どうも星糞峠を越える林道がある。　ここを歩いた記事がないか???調べるのですが､｢黒曜石ミュージアム｣の記事意外に星糞峠を歩いた記事は1,2しかなく詳細がよくわからない。
「まあ　出かければ　黒曜石の露頭の位置も教えてもらえるだろう。
　地図で見れば　道がついていそうなので２時間もあれば、何とかなるだろう。地図だけしっかり持って　後は　ミュージアムで教えてもらって・・・」といつもの調子である。
現地に行ってわかったのですが、僕が描いていた「『黒曜石原石の露頭』」がみられる」というイメージとは随分違うことが　後で判りました。

黒　曜　石　：



火山岩の一種で化学組成では一般に無水珪酸に富んだ酸性岩で、流紋岩や石英安山岩とよく似ています。
火山活動により地上に噴出した流紋岩～安山岩質の粘性の高い
岩漿（マグマ）が、急冷により、晶出が妨げられてできた岩石で硬度は５度。比重は2､339～2､527。
これらは、ケイ長質岩に分類され、けい酸アルミニウムの他に酸化カリウム、酸化ナトリウムなどのアルカリ金属酸化物を８～１２％含み、比較的鉱物の融点が低いのが特徴。
どんなマグマでも黒曜石になるものではなく、流紋岩～石英安山岩質のマグマからできます。
また、割るとガラスのように鋭いエッジが出来ることから、石器の材料として使われてきました
今から約８０～１４０万年前の諏訪地方では八ヶ岳山系が活発に噴火し、地下からのマグマが地表に噴出し、壮大な噴火活動が繰り返され、その噴火活動が終息にいたる際に、粘度の高いマグマが急速に冷却し、黒曜石が生成されました。

　星糞峠のある長和町鷹山へは　清里からは　ちょうど八ケ岳を挟んで北西の山の裏側で、小海線の通っている八ケ岳の東側を越えるか　または八ケ岳の西側の茅野から蓼科山の横　白樺湖を越えるかして、甲州・諏訪側から信州側へ越えねばならない。土地勘のない関西からだと車でないと行きにくいところである。
　清里の朝と清泉寮の朝食をゆっくり楽しんでの出発で、朝が遅れたので、茅野から白樺湖の横を越えて、鷹山に入ることにする。其の後　星糞峠を歩いて、黒曜石見られなかったことを考えて、鷹山から中山峠・霧ケ峰へ行って東京へ向かうスケジュールをたてる。
清里から中央高速道路長坂 IC から諏訪南・茅野 IC を出て、北へ八ケ岳・蓼科山の西山麓を白樺湖へ。
八ケ岳には雲がかかっているが青空ものぞいて快適。八ケ岳の西麓の丘陵地国道 152 号線を北へ、尖石縄文遺跡のすぐ近くをどんどん登って、蓼科山の山中へ入ってゆく。　この辺りから青空は消え、霧雨交じり。

中国道から八ケ岳　長坂 IC

茅野から蓼科山の山中

諏訪・信濃の境　蓼科山山麓白樺湖

約１時間 30 分ほどで、白樺湖。やっぱり冷たい風で寒いが、湖面に霧が立ち込め、かえって美しい。
もう　ここから大門峠を越えればすぐ鷹山である。
霧雨の中　霧ケ峰・車山への分かれ道を通りすごし、あっけなく大門峠を越えて信州側へ。

大門峠を越えて　すぐ　鷹山スキー場・黒曜石ミュージアムの標識のある追分で左へ鷹山の集落に入る。山又山の真っ只中である。霧雨の中周りの状況がよくわからないまま黒曜石ミュージアムの前につく。

　南には大きな鷹山スキー場のゲレンデから霧ケ峰の山々が見え、反対側ミュージアムの横　草地の広場の向こうに星糞峠・虫倉山の尾根筋が見えている。

鷹山 1. スキー場入り口の標識で集落へ

鷹山 2. 黒曜石原産地遺跡のある虫倉山は雲の中

鷹山 3. 黒曜石ミュージアム　.

雨もあがり、星糞峠のある虫倉山が見えてくる　黒曜石ミュージアム前　2006. 10. 7.
広場中央奥の案内板のところから星糞峠への遊歩道がついている

まず、星糞峠の黒曜石・星糞峠への道への情報を聞きに黒曜石ミュージアムに行く。
ミュージアムにはかつて　縄文人が黒曜石を採取した黒曜石鉱山の解説や黒曜石採掘の様子と加工で作り出された石器や信州黒曜石の広がりなどがわかりやすく展示されている。

黒耀石体験ミュージアム　星糞峠黒曜石の展示　　2006. 10. 7.

このミュージアムや長和町では黒曜石の「曜」の字を「耀・カガヤキ」と書いて「黒耀石体験ミュージアム」と書く。人の手が加わって割れた黒曜石の破片は光を浴びてキラキラ輝く。この地に無数に散らばる半透明の意思がキラキラ輝くのをいつの頃からか「星糞」と呼び習わしてきたことから、「黒曜石」にも「黒耀石」と名づけたという。この地が国内有数の黒曜石原産地である証を主張しているのだろう。

「星糞峠に登って　黒曜石の露頭のところまで行きたいので　そこまでの道を教えてほしい」と言うとどうもおかしい。

「星糞峠まではこのミュージアムの裏から遊歩道がついて、その周りが星糞峠の黒曜石鉱山遺跡です。
星糞峠の黒曜石鉱山の周辺までなら　30 分ほどで行けるのですが、遺跡から上の方は急な山道になるので厳しいし、行かない方がいい。露頭と言っても　それは見つかっていない。それに　今　熊が周辺の山に出て　危ないので　星糞峠の方には行かない方がいい。」と学芸員の人も出てきて、どうも歯切れが悪い。

「ええ・・・熊　　こっちの尾根に出没しているのでなければ行けるでしょう。鈴でもあれば貸してほしい」と。

「まあね。　十分注意すれば・・・・」と OK してくれる。

ミュージアムで鈴を用意してもらっている間にミュージアムの展示を見ることにした。

「星糞峠の縄文黒曜石鉱山遺跡」や「黒曜石の露頭がみつからない」の言葉に引っかかっていましたが、展示を見て　判りました。

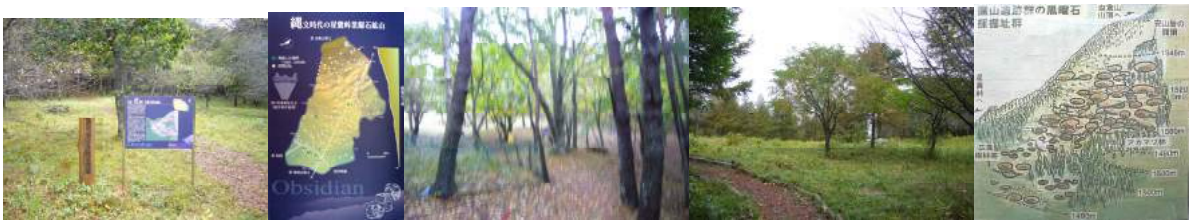
この地の黒曜石産出の経緯は次の通りだという。

昔虫倉山噴火で黒曜石が形成され、その火口近傍が地殻変動や気候不安定な時期とあいまって、土砂崩れで

崩壊し、大量の黒曜石が土砂と共に星糞峠から山麓の川にまで流れ落ちた。
旧石器人たちは川で土砂で洗われて露出した黒曜石の破片を発見し、それで道具を作り、この鷹山川筋に住み着き、狩などで生活をはじめた。多くの人達がこの川筋で生活を始めた。
そして　縄文の時代になると　もう川筋には黒曜石が取れなくなり、山に登って黒曜石を掘り出すようになり、小さく砕いた原石や道具に加工された黒曜石が各地に運ばれるようになった。
　それで、縄文人が山で黒曜石を掘り出した後の窪地が確認されただけで 150 以上星糞峠から上の虫倉山の斜面に点々と存在し、「星糞峠縄文の黒曜石鉱山遺跡・黒曜石原産地遺跡」として保存され、この黒曜石の破片が星糞峠近傍でキラキラひかり、「星糞」と呼ばれてきたという。
したがって、耳慣れない「黒曜石鉱山」の言葉や「黒曜石原石の露頭」が見つからぬ由縁である。

鈴を腰に「カラン　カラン」と音をさせながら、草地の奥の入り口から林の中に入ってゆく。
まあ　鈴を付けても最近の熊には鈴もお守り程度ですが、二人がガサガサ音をたてれば大丈夫でしょう。
「星糞峠縄文黒曜石鉱山へ」の案内板のところから木片が敷かれた遊歩道が林の中　尾根の上へと登ってゆく。
　敷き詰められた木片が絨毯のように心地よく、雨上がりの緑が美しい森の中の静かなハイキングです。
こんなに良く整備された道があるとは思いもよりませんでした。
「これ　黒曜石じゃない　さっきから　時折　キラキラ光っている石がある。」と家内が小さな黒い破片を指でつまんでいる。ガラス状半透明の黒い破片　こんなに簡単に黒曜石が見つかるなんて・・・・
　道端に眼を凝らしながら、尾根の上へ向かって 30 分。尾根の上に出たところが星糞峠だった。

星糞峠へと続く良く整備された遊歩道　2006. 11. 7.



国史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡の案内板のある星糞峠

峠には左から右へ尾根を越えてゆく林道があるが、峠の左で扉か閉じられていて　林道からは峠へは行けない。
峠は右手の虫倉山と左の小さな山高松山の鞍部になっていて、右手の虫倉山への山の斜面が続く林の入り口に「星糞峠黒曜石原産地遺跡」の案内板があり、この林の奥急な山の斜面に広がる縄文人の黒曜石採取跡　黒曜石鉱山の分布図が点々と 150 を越える番号が付けられた印で示され、林道側の休憩所にはこの鉱山遺跡の模型が置かれていた。　峠が標高約 1400m でここから虫倉山の斜面 1540m 近くまで　広がっている。

峠の上にも 111 号・112 号採掘跡の標識を付けた窪地が青いシートで覆われ直ぐそばに見える。

この星糞峠の左手　西側の谷へ降りたところが女男倉川の黒曜石原産地そしてその向こう北から南へ続く尾根筋が和田峠・霧ケ峰の石曜石原産地がつづく。

「信州 霧ケ峰黒曜石原産地」「八ヶ岳山麓の黒曜石原産地」と呼ばれる信州の黒曜石原産地地帯と呼ばれる日本各地で使われた縄文の黒曜石石器の原石の供給場所である。特にこの星糞峠は　縄文人が長期にわたって、黒曜石を採掘した跡が窪地となって山の斜面に点々と続く縄文の黒曜石鉱山跡である。

星糞峠黒曜石原産地遺跡の標識のところから赤い矢印の順路標識にしたがって、鉱山遺跡の中に入る。

虫倉山の頂上へ向かう緩やかな斜面の静かな雑木林の中に、採掘跡を示す野球ボールほどの認識票がついた窪地が点々と続く。

程なく前方に金網に囲まれたブルーシートがかぶせられた窪地が案内板とともに見えてくる。

標高 1500m　鉱山遺跡の中ほどにある第一号掘削跡遺跡である。

虫倉山へのゆるい斜面上に広がる黒曜石鉱山遺跡　第一採掘跡周辺　　2006. 10. 7.

黒曜石鉱山遺跡　第一採掘跡と発掘状況を示す案内板　縄文後期 3500 年前

この案内板によると「この窪地の地下には、直径 3m　深さ 3m ほどの井戸状の穴が多数埋もれていている。
　この穴は竪坑と呼ばれ、黒曜石の塊を掘り出した穴で、黒曜石の塊がうずまっている白い粘土層に向かって掘られた穴である。　この竪坑から縄文後期 3500 年前の土器が出土している。」と記されていた。
この第一採掘跡の少し上のところから虫倉山の頂上へ向かって急斜面となっていて、ロープが張りめぐらして一般の見学路はここで横に巡るようになっていた。

さらに上に行くところにはロープを越えたところに「探求コース」の案内板があり、赤い矢印の踏み跡表示が急な斜面をジグザグに登る細い踏み跡があり、踏み跡沿いに採掘跡を示す窪地表示ボールが点々と続いている。

標高 1500m 付近　急斜面の斜面に採掘跡を示すボールと探索路を示す矢印が続く

「ここより上が厳しいので、上に行かずに降りてきたら・・・」とアドバイスをもらったところ。
　案内板には「星糞峠鉱山遺跡は標高 1487m の所にある星糞峠から虫倉山頂上部周辺 1546.8m の南北 220m 東西　300m に広がっている。
そして、第一号採掘跡のある標高 1500m のこのあたりが、遺跡のちょうど中間点。ここまでの緩やかな斜面がここから急斜面に変わる。この急斜面と頂上の間にまだ見つかっていない黒曜石形成にかかわった噴火口がある可能性が高い。」と書かれていた。
　また　ここに至る道々にも目を凝らすと小さな黒曜石の破片がボツボツと見つかった。

見学路で見つけた黒曜石

　熊が出る気配もないし、「やっぱり、視界の開ける頂上周辺　鉱山遺跡の最上部まで行きたい」と結局そのままさらに上へ登って　鉱山遺跡の最上部まで行きました。

鉱山遺跡の最上部　　2006.10.7.

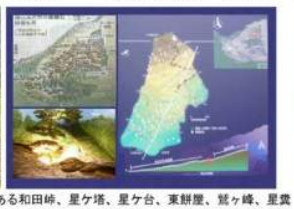
探求コースの案内板から、さほど掛からずに鉱山遺跡の最上部になり、木々のないオープンな草地になり、そこからは西側に広がる霧ケ峰の山々　そして真下に鷹山の集落が見えました。

1.　鷹山集落越しに見える霧ケ峰の山々　　2.　鷹山の集落

星糞峠鉱山遺跡　最上部からの眺望　2006.10.7.

糸魚川の翡翠と対になって、三内丸山遺跡までも運ばれた信州の黒曜石。
是非そんな信州の黒曜石原産地で自然の黒曜石を確かめたかった希望がかないました。
ミュージアムの人達は降りてくるのが遅いので心配したと聞きましたが・・・・結局ゆっくりと星糞峠鉱山遺跡の林の中を 2 時間弱歩いて、黒曜石ミュージアムまで降りてきました。
情報が少ししかなく、どうなるかと心配して出かけたのですが、誰もいない静かな山中　木々が点在する山の斜面の林の中に今もキラキラと黒曜石のクズが輝いていました。
車でないと便利の悪い場所ですが、「星糞峠」の名前そのままに誰もいない神秘的な空間。
ゆっくりと縄文と対話できる空間でした。
　この後　霧ケ峰・中山峠の黒曜石を続けて訪ねる計画でしたが、もう　満足感いっぱいで　結局車で中山峠・霧ケ峰を車で走りぬけて、諏訪まで出てきました。
ご機嫌の鷹山　星糞峠の黒曜石探訪でした。
もっと　便利がよければ　本当にお勧めなんですが・・・・

星糞峠　黒曜石原産地遺跡　　長野県長和町鷹山　2006.10.7.



黒曜石は、諏訪湖の北方にそびえる霧ケ峰にある和田峠、星ケ塔、星ケ台、東餅屋、鷲ヶ峰、星糞峠、男女倉などで産する。
いずれも標高 1,500 メートル前後で高位にあり、　総じて　和田峠産黒曜石と呼ばれ、その代表的な原産地遺跡が霧が峰に隣り合う長野県長和町鷹山の鷹山遺跡群の星糞峠黒曜石原産地遺跡である。
このいわゆる和田峠産の黒曜石は、松本～大町を経て姫川水系を流下して糸魚川に至る地理学のフォッサ・マグナと重なる文化伝播経路を経て、日本海に面する糸魚川に出る。　そして、姫川で産するヒスイとセットとなって、西は富山県や石川県、福井県へ、そして東は新潟県から青森県へと運ばれていった。
鷹山黒耀石原産地遺跡群は大規模な 11 の遺跡と小規模な 5 つの地点遺跡から構成され、星糞峠には縄文時代の黒耀石鉱山と呼ばれる大規模な発掘跡がある。
旧石器時代の遺跡群は 1950 年代に地元の児玉司農武氏によって発見され、その後、小規模な発掘が行われてきたが、1984 年のたかやまスキー場建設に伴う発掘調査が契機となって、黒曜石原産地遺跡として本格的な調査が行われるようになった。
そして、遺跡群の一部からは刃器や槍先尖頭器の製作に関わる遺物が大量に出土するなどこれらの遺跡が原産地という特性を背景として黒曜石の採集から、目的する石器の量産・搬出を行っていた遺跡である事も確認されました。また、前人未到の森林部全体を対象として、鷹山遺跡群の詳細な分布調査が行われ、星屑峠を中心とした数多くの黒曜石採掘跡である 180 を超える凹型くぼ地の存在が確認された。
現在　縄文の黒曜石鉱山と呼ばれる星糞峠の遺跡では　峠から虫倉山の急な斜面の林の中にあるこれら黒曜石の採掘跡の凹型窪地の一つ一つに番号札がつけられ、国史跡「黒曜石原産地遺跡」として保存されている。
この星糞峠黒曜石原産地遺跡の成り立ちについては次のように考えられている。
今から数十万年前　鷹山の星糞峠近くには大きな火山の噴火口があり、火道の周囲はマグマが急激に冷やされてできたガラス状の火山岩「黒曜石」の壁が出来ていた。そして、火道の上部が崩れ、大量の土砂とともに黒曜石が鷹山川に堆積。埋もれた川の一部は湿地化する。約 2 万年前の旧石器時代に人々がこの湿地の周辺に住み、狩をすると共に　この鷹山川で土砂が流き露出した黒曜石をみつけ、石器に加工しはじめる。また　この地の黒曜石が周辺にも伝わり、この黒曜石を取りにくる人達も現れる。　約 1 万年ほどまえの縄文時代　気候は暖かくなり、周囲に森が発達すると共に気候が穏やかになると山崩れも少なくなり、川に崩れ落ちる黒曜石も少なくなり、縄文の人達は山に登りつつ、黒曜石を掘り始め、それが 3500 年前頃縄文の終わりまで続く。
この黒曜石は上記のような過程でうまれることから、その原産地は限られ、あたかもこの地が縄文の黒曜石鉱山として、山の斜面のあちこちで大量の黒曜石が掘り出され、その原石や鋭利なナイフ状石器や石鏃　槍先尖頭器などの石器に加工され、糸魚川周辺のヒスイとついになって遠く青森三内丸山遺跡など全国に広がっていった。

中山道　和田峠周辺　　峠に和田峠遺跡群の標識が立っていた　2006.10.7.

すっかり　秋の装い　紅葉が始まった霧ケ峰　　2006.10.7.

ここにも縄文人の足跡　黒曜石の原産地がある

一度ゆっくり、信州の山を眺めながらのゆったりした旅をしたかったのですが、そんな満足を達成させてくれた甲州・信濃国境の縄文遺跡を訪ねる旅。
「甲州　茅が岳山麓・八ケ岳清里から信濃霧ケ峰　星糞峠へ」の旅の写真をアルバムにまとめました。
諏訪湖・諏訪大社もすぐ近くで　製鉄遺跡探訪・和鉄の道としても　面白いところですが、今回はたずねることができませんでした。
この諏訪湖周辺は湿地の葦原に吸い寄せられた鉄が堆積して作られた褐鉄鉱・高師小僧が豊富にあり、これを原料として古代たたら製鉄の前に製鉄が行われた可能性が多くの伝承で伝えられ、諏訪大社も製鉄の民との関連性を考える人もいます。また、ある本では　すでに諏訪・信濃では縄文時代には褐鉄鉱・高師小僧を利用した製鉄が行われ、その様相を縄文の火炎土器そして製鉄炉が円筒埴輪だとして研究をしている人もいます。
にわかには信じられませんが、これらの鉄素材がひょっとして１０００℃近傍で反応して溶けるなら、可能性があるかもしれないときになっています。
そうすれば、日本各地に残る伝承の多さから日本の古代が変わってしまうと・・・・・
梅ノ木遺跡が出土した北杜市にも古墳時代の鉄製品の出土があるなど古代鉄の痕跡があると北杜市の埋蔵文化センタで聞きましたが、次回です。

甲州・信州国境　八ケ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて

1. 茅ケ岳山麓の北杜市梅ノ木縄文集落遺跡を訪ねる
   日本人の心の故郷　　Pdf File 縄文の集落がそっくりそのまま見つかった
2. 初秋　白樺が美しい　紅葉し始めた清里の朝
   八ケ岳　清里　清泉寮に泊まって
3. 長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる
   縄文の黒曜石原産地遺跡　　黒曜石」を日本各地に配っていた霧ケ峰・中山峠

【完】

風来坊　Country　Walk　　山歩き　2006

1.　京都東山　陽だまりハイク　　2006.2.9.

　　蝦夷の雄「アテルイ」の足跡「清水寺・将軍塚」と永観堂「みかえり阿弥陀仏」を訪ねて

2.　北摂連山の「キリシタンの里　千提寺」Country Walk と「マリア十五原義図」展

　　大阪府茨木市　千提寺　　2006.2.8.

3.　弥生の高地性集落【1】芦屋市「会下山遺跡」からロックガーデンへ　　ハイキング

1.　蝦夷の雄「アテルイ」の痕跡
「清水寺・将軍塚」と永観堂「みかえり阿弥陀仏」を訪ねて

京都東山の陽だまりハイク　　2006.2.9.

京都東山　陽だまり　ハイク　アテルイの足跡と見かえり阿弥陀様

●伝説　永観堂　見かえり阿弥陀さま　の由来

●東北の雄「アテルイ」と征夷大将軍　坂上田村麻呂

1.1.　清水寺から将軍塚へ東山をハイキング

1. 清水寺　清水の舞台から蝦夷の雄アテルイ・モレの顕彰碑へ
2. 清水寺から東山を登って坂上田村麻呂の将軍塚へ
3. 将軍塚からの京都展望

1.2. 永観堂　みかえり阿弥陀さまを訪ねて

京都 東山 将軍塚より 京都市街地全景　2006.2.9.

円山公園から見上げる東山　将軍塚周辺

京都の街の東を南北に連なる東山連峰

2月6日　「京都　東山三十六峰」の東山界隈を歩きました。

発端はNHK新日曜美術館の司会など活躍中のはなさんのエッセー「ちいさいぶつぞう　おおきいぶつぞう」。京都　東山山麓の永観堂は東山山麓　銀閣寺から南禅寺への散策路の途中にある静かな寺永観堂の項に

『　小走りで仏さまに歩み寄ると「プィッ」と横を向く阿弥陀様の姿がありました。
　せっかく　会いにきたのに「プィツ」はないでしょう。・・・・・
　ぽかぽか心温まるゆたんぽのような仏さま・・・　　』

かわいらしい仏さまの挿絵とともにこれだけ愛らしく親しみやすい文に出会うのは初め

て。永観堂は学生時代に何度も歩き、秋の素晴らしい紅葉の印象はあるのですが、仏さま「みかえり阿弥陀仏」を拝観した記憶はなし。「是非とも出会いた」と。
また　この東山界隈には東北のたたら探訪で知った蝦夷の雄「アテルイ」の検証碑が清水寺にありその背後　東山・将軍塚はアテルイを討った坂上田村麻呂が眠るという。一度是非訪れたい場所。
「アテルイ」は教科書などでは「悪路王」・「鬼」とされていますが　東北人には今も強烈に愛され続けている。
東北の Country walk で東北人が熱っぽく語るその人物像を知り、東北の地と共に私の好きな人物の一人である。

（ 京都に連れてこられたアテルイは坂上田村麻呂の助命嘆願むなしく河内で処刑。
坂上田村麻呂は建立した清水寺で国家守護と共に戦乱で散った将兵をも弔ったという。
そして　平安京造営の折、桓武天皇は京の安泰を祈って　平安京が一望できる東山将軍塚の頂上に
塚を築き武将像に坂上田村麻呂の甲冑を着せて葬ったという。　）

東山の峰々を伝うハイキングは幾度か学生時代にはありましたが、ついぞ出掛けたことなし。今はどうなつているのか　東山の縦走路が今もあるのか良くわかりませんが、まあ　でかければ、とうにかなるだろう。
清水寺から将軍塚そして永観堂をつないで歩いてみよう。
久しぶりに東山界隈を歩こうと 2 月 6 日でかけました。

●　伝説　永観堂　見返りの阿弥陀さまの由来

東山連峰の山麓に建つ禅林寺永観堂　　2006. 2. 9.

永観堂は東山連峰　第十六峰　若王子山の真下にあり、正しくは禅林寺といい創建は平安初期という。
永観堂と呼ぶのは七世永観律師の名に由来するもので、本尊阿弥陀如来像は“見返り阿弥陀”と呼ばれ、その名のごとく、顔を左（向かって右）に曲げて後ろを振り返った姿の阿弥陀像である。
この阿弥陀仏には次のような伝説がある。

平安の中頃、永保 2 年（1082 年）、当時 50 歳の永観律師が本堂で阿弥陀像の周りを巡りながら念仏を唱える行道念仏の行をしている時、阿弥陀如来（実は室町時代作）が壇からおりて永観と行動を共にした。永観は驚いて歩みを止めた。先行した阿弥陀如来はふりむいて「永観遅いぞ」と促された。その姿が、そのまま像になったと言われている。
永観の時代と本尊の作られた時とには大きなズレがある。信仰物語の面白い所以である。
また、永観は人々に念仏を勧め、また、禅林寺内に薬王院を設けて、病人救済などの慈善事業も盛んに行なった。永観は、今日の社会福祉活動の先駆者といえるであろう。
禅林寺を永観堂と呼ぶのは、この永観律師が住したことに由来する。なお、「永観堂」は普通「えいかんどう」と読むが、「永観」という僧の名は「ようかん」と読むのが正しいとされている。

● 蝦夷の雄「阿弖流為・アテルイ」と征夷大将軍　坂上田村麻呂

古代東北は資源王国。この東北の資源をねらて　大和朝廷の蝦夷征伐が始まった。
蝦夷たちが手にした蕨手刀は弧状にそり、切る刀への日本刀のルーツ。
戦いに敗れた蝦夷の技術集団は俘囚となって、日本各地に散らばって、たたら製鉄・刀鍛冶の技術を日本全国に広めた。　　出羽鍛冶・舞草鍛冶などの名が広く日本各地に残る

清水寺にあるアテルイ・モレの顕彰碑

「アテルイ」の実像を示す資料はほとんど残されていないが、アテルイ復権の運動が今も広がっている。
東北に通って「和鐵」について　歩いているうちに「日高見の鬼」と呼ばれる蝦夷の族長「アテルイ」に東北の人たちが親しみを込め、熱っぽく語るその人物像ならびに「アテルイ」への強い連帯にビツクリ。
アテルイの生涯と蝦夷の戦いを熱っぽく描いた盛岡在住の高橋克彦氏の小説「火怨」があり、東北人の思いを込めたアニメ映画「アテルイ」の原案であり、東北人で語られてきた「蝦夷観」　「田村麻呂と蝦夷との交流」ほか当時の東北の事情が良く描かれている。

【蝦夷の雄「阿弖流為・アテルイ」と征夷大将軍　坂上田村麻呂】

8 世紀末頃まで、東北北上川流域を日高見国といい、大和朝廷の勢力圏外にあり、独自の生活と文化を形成していた。
当時　大和朝廷は服属しない東北の民を蝦夷と呼び、蔑視してその計略のため数次にわたり、巨万の征夷軍を動員した。
胆沢（岩手県水沢市地方）の族長「アテルイ」は近隣の部族を連合して 10 数年にわたりこの侵略を頑強に阻止した。中でも 789 年の巣伏の戦いでは勇猛果敢に奮闘して征夷軍に壊滅的な打撃を与え、蝦夷の英雄と称された。
征夷大将軍となって東北に赴いた坂上田村麻呂は和戦量戦略を用いつつ、801 年　数万の将兵を動員してアテルイを打ち破り、ここに蝦夷攻撃は終り東北経営の拠点として胆沢城が築かれた。

「アテルイ」は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷を憂慮して、盟友「モレ」と同胞 500 余名と共に降伏し、田村麿に従って平安京に上った。田村麻呂は蝦夷の両雄の武勇と器量を惜しみ、東北経営に登用すべく朝廷に助命嘆願したが、公家たちに反対され、「アテルイ」「モレ」の両雄は 802 年に河内の国で処刑された。田村麻呂は深く帰依し寺の造営につくしたゆかりの「清水寺」でこの二人や敵味方の将兵の霊にその誠を呈して祈念を重ねたという。

また、清水寺の後には京都東山連邦が連なり、その中央部のなだらかな山の上に「将軍塚」がある。

将軍塚からは京都全体が一望でき、桓武天皇が平安京造営を決断した場所といわれる。

そして、長く都を護る祈りを込めて土の武将像・坂上田村麻呂を作り、その甲冑を着せ、鉄の弓矢・太刀を持たせてここに埋めたといわれ「将軍塚」の名がついた。山の中央部にその古い円形の将軍塚があり、また頂上部の大日堂にはこの山から出土した平安初期の大日如来石像が祭られている。

一番最初にアテルイの名が出てくる「続日本書紀」では「賊帥夷亜弖流為　　賊の大将　蝦夷のアテルイ」となっているのが後の編纂になるや「類聚国史」や「日本紀略」では「夷大墓公阿弖流為　」と「公」という姓を与えられ、蝦夷の統率者として遇されており、その人物像には多くのなぞが残されていて、かつ　魅力的な人物である。

一般歴史では「悪路王」と呼ばれ、田村麻呂の影で悪者とされてきた「アテルイ」であるが、東北では自分たちのオリジンとしての連帯の中「坂上田村麻呂を信じ、更なる騒乱による犠牲と荒廃をさけて自ら投降し、平和共存を願うアテルイ」と広く愛してきた。そして、平成 6 年にアテルイの復権に賭けた人たちの熱い運動で、田村麻呂ゆかりの京都清水寺の境内に「アテルイ・モレ」の顕彰碑が建てられた。

岩手県北上市の市民憲章より

「あの高嶺　鬼住む誇り　その瀬音　久遠の讃歌

この台地　燃えたついのち　　ここは北上」

岩手県民総参加製作の長編アニメ映画「アテルイ」のメッセージより

「アテルイは親・兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。

21 世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」

■　参考　「和鉄の道　Iron Road　たたら遺跡探訪【Ⅳ】」　6.蝦夷の鉄　東北　和鉄の道

http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron06.pdf

1.1.　清水寺から将軍塚へ東山をハイキング

1.　清水の舞台から蝦夷の雄　アテルイ・モレの顕彰碑へ

2 月 9 日朝　晴れ　京都駅から東山通りを走るバスに乗って清水道で降りる。東大路通りから直角にまっ直ぐ東に緩やかな坂道清水道をぶらぶらまわりを眺めながら上ってゆく。この坂道登るのは何十年ぶりかである。10 分ほど上ったところで、五条坂から茶碗坂が合わさって清水坂。　このあたりからは、立ち並ぶみやげ物屋の街筋のむこうに朱塗りの山門が見え、バスでやってきた修学旅行の学生でごった返している。

みやげ物屋の街筋を抜けると　ぱっと視界が開け　東山をバツクに真っ赤な清水寺の山門と塔が見える。

さほど登りとは感じませんでしたが、ここまで登ると京都の市街地が見晴らされ随分高い。

清水寺の参詣道　清水道　清水寺近く

清水寺の正面　山門

世界文化遺産　清水寺は「清水の舞台」で京都では最も人気の観光スポットのひとつである。
東山山麓境内の岩の間から清水寺の由来となった清水「音羽の滝」が湧き出し、この霊水と共に観音様が深く京都の人たちに信仰されてきた。　しかし、観音信仰に深く帰依した坂上田村麻呂の尽力でこの清水寺が建立されまた　長きに渡った戦乱で倒れた将兵をとむらったことなどまったく知りませんでした。
そして、この清水寺の境内に坂上田村麻呂と戦った蝦夷の雄アテルイとモレの顕彰碑があるといい、背後に連なる東山三十六峰　知恩院上の華頂山山頂付近には坂上田村麻呂が葬られたという将軍塚があり、京都の街全体を見守っているという。
何度かこの清水寺近辺から東山を歩いた記憶はあるのですが、今はどうなっているか　全くわからず。まず、清水の舞台へ上がって　アテルイの碑に出会ってから東山への道を探す。
拝観口で聞くとアテルイの碑は舞台の直ぐ下のところ　そして　東山へ登る道は地主神社の所からしっかりついているという。

清水寺の舞台　　2006. 2. 9.

清水寺の舞台からひとしきり京都の市街地を見て舞台の裏手に回りこむと北側に地主神社の鳥居が見え、鳥居の横に拝観口で聞いた東山への上り口の標識とよく整備された道が見える。清水寺から東山へ登る道がどうなっているか心配でしたがまったく心配なし。

清水寺の舞台から　京都市街地遠望　　中央左に京都タワー　　2006. 2. 9.

音羽の滝から　清水の舞台の下の遊歩道を舞台木組みを眺めながら　西へ　　2006.2.9.

舞台の直ぐ横に沿って舞台を支える木組みを見上げる階段があり、階段を降りたところが少し広場になっていて　石組みで作られた岩壁から湧水が3筋落ちている。ぼくの印象とは随分違う人工的によく整備された音羽の滝。

昔はここで　流れ落ちる水に打たれる人がいたりして、もっと素朴な場所だったのですが、観光ブームがすっかり景色を一辺していました。

音羽の滝

アテルイ・モレの顕彰碑

音羽の滝のところから西へ紅葉谷の縁に沿って、清水の舞台の木組みを見上げながら西の山門の方に遊歩道が続いていて、清水の舞台の下を通り抜けたところに大きな自然石の碑が木々の間から見え、これが蝦夷の雄「アテルイ」と「モレ」の顕彰碑だった。

こんなところに顕彰碑が建立されていたのか・・・

この谷沿いの道は何度も通ったことがある谷と京都市街を見晴らす静かな場所である。

1994年11月　平安建都1200年を記念して関西岩手県人会やアテルイを顕彰する会などの人たちによって建てられた自然石の立派な顕彰碑である。

清水寺　南の谷に面する清水の舞台下の丘にある　アテルイ・モレの顕彰碑

顕彰碑の横に置かれた銘文には　アテルイ・モレを愛した東北人の熱い思いがそのまま刻まれていて、以前　東北を歩いて感じた「アテルイ」「モレ」の人物像を重ねていました。

阿弖流為　母禮　の顕彰碑に刻まれた銘文

8 世紀末頃まで、東北北上川流域を日高見国といい、大和政府の勢力圏外にあり、独自の生活と文化を形成していた。当時　大和政府は服属しない東北の民を蝦夷と呼び、蔑視し、その計略のため数次にわたり、巨万の征夷軍を動員した。胆沢（岩手県水沢市地方）の首領大墓公阿弖流為「アテルイ」は近隣の部族を連合して 10 数年にわたりこの侵略を頑強に阻止した。中でも 789 年の巣伏の戦いでは勇猛果敢に奮闘して征夷軍に壊滅的な打撃を与えた。

801年　坂上田村麻呂は四万の将兵を動員して戦地に赴き、帰順策により胆沢に進出し胆沢城を築いた。

阿弖流為は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷民を憂慮し、同胞五百余名を従えて、田村麻呂の軍門に降った。

田村麻呂将軍は阿弖流為と副将磐具公母禮「モレ」を伴い京都に帰還し、蝦夷の両雄の武勇と器量を惜しみ、東北経営に登用すべく政府に助命嘆願した。　しかし、公家たちの反対により弖流為　母禮は 802 年 8 月 13 日河内国で処刑された。

平安建都 1200 年に当たり、田村麻呂の悲願空しく異郷の地で散った阿弖流為　母礼の顕彰碑を清水寺の格別の厚意により田村麻呂開基の同寺境内に建立す。

両雄もつて冥さるべし。

1994 年 11 月　吉祥日

関西胆江同郷会　　アテルイを顕彰する会

関西岩手賢人会　　京都岩手賢人会

2.　清水寺から東山を登って坂上田村麻呂の将軍塚へ

清水寺から将軍塚・大日堂への登り口　　2006. 23. 9.

地主神社の上り口には道標があり､将軍塚まで 10 町　知恩院まで 17 町など東山山麓への道のりが記されている。直ぐに清水寺寺域を出る橋を渡ったところで、そのまま真っ直ぐ山麓沿いを円山公園の方へ行く道から分かれて東へ山へ登ってゆく。清水寺の喧騒がうそのようなまったく人影のない静かな林の中。

山道であるが、足元は落ち葉のじゅうたんでサクサクサクと心地良いく、良く手入れされた林が美しい。

清水寺から将軍塚へ東山へ登ってゆく森の中の道

誰もいない林の中にもひっそりと清水寺と将軍塚の古い道標があり、また、この美しい林が神社建築に必要な桧皮の試験採取地であるとの案内板がある。おそらくは古くから清水寺から東山華頂山頂上の将軍塚・大日如来への参詣の古道なのだろう。
東山将軍塚へは五条とおりから北へ東山ドライブウエイが通じているので、山道などもう荒れていると思っていましたが、ハイキング道としてよく整備されているのにビックリ。

桧皮採取試験地を示す案内板

東山を貫く京都一周トレイル　東山コースの案内板

今回　東山を歩くまで良く知らなかったのですが、京都市街地を取り巻く東山・北山・西山をぐるりと巡る京都一周トレイルがハイキングコースとして整備され、京都の市街地のどこからでもこのトレイルを出入りして歩けるようになっている。清水寺から約 15 分ほどで東山の縦走路　京都一周トレイル東山コースに出た。この道は五条通渋谷街道から将軍塚を通って、蹴上げ・鹿ケ谷・大文字山から比叡山へと続いていて、ここからは将軍塚までこのトレイルを歩く。15 分ほどで将軍塚の頂上部の広い頂上公園　東山ドライブウエイの終点の駐車場に飛び出た。駐車場の北の山並みの奥に雪をかぶった比叡山が見える。
将軍塚は東山ドライブウエイからしか簡単には行けず、しかも路線バスがないので　車でないと行きにくい所と思っていましたが、京都市街地から 30 分ちょっとで将軍塚の頂上。本当に以外でした。

京都トレイル　東山コース　将軍塚への道で

将軍塚の駐車場から見る比叡山

公園の端に将軍塚の案内板があり、この地が昔から眼下に京都盆地全体を見下ろせる場所で桓武天皇が平安京建都の際にも　この頂上に立ち、建都を決意したという。
また、将軍塚はこの広い山頂部の北半分を占める青蓮院門跡大日堂の寺域の中にあると書かれている。

将軍塚の案内板と大日堂の門　　2006.2.9.

大日堂のお堂には将軍塚の「大日さん」として広く京都の人たちに信仰されてきた平安時代初期の古い大きな石仏大日如来が祭られていた。この仏様はこの将軍塚の山から出てきたという。
私はまったく知りませんでしたが、そういえば　登る途中の道標に「将軍塚」と並んで「大日如来」と書かれていて、道標に地名ではなく不思議に思ってましたが、京都の街で広く信仰されていた証拠。

この大日堂の周囲は広い庭園となっていて、北から北西斜面がぐるりと京都市街を眺める展望書になっていて、その手前の頂上部に周囲を石で囲まれた直径約 20 メートルほどの円形の塚があり、これが将軍塚。
桓武天皇が平安京の安泰を願って 2.5 メートルの武者像に坂上田村麻呂の甲冑を着せ太刀と弓矢を持たせてここに埋めたとの伝承の塚である。
将軍塚の背後には眼下にはなにもさえぎるもののもなく、京都市街是全体がパノラマのように広がり、本当に素晴らしい位置にある。

京都 東山 将軍塚より 京都市街地全景　2006. 2. 9.

大日堂とその寺域の中にある将軍塚　　2006. 2. 9.

3.　将軍塚からの京都展望

将軍塚は平安京建都の昔から京都市街地全体を見下ろせる素晴らしい場所で、また今も京都の夜景を楽しむ最も良い場所として有名である。

（でも　車でないと行けないことから、若いカップルのデートスポットとして夏の夜は一杯だとか・・・）

将軍塚の展望台は座って京都を見下ろせるよう桟敷のようになっていて、あっけに取られて学生時代生活した空間を目で追いながら京都の街を眺めていました。

南に京都タワーぼんやり修復中の東本願寺も見え　中心部に御所・二条城・下鴨神社の緑の森が点在し、すぐ下には　神楽岡・吉田山　遠く加茂川の向こうに双丘が市街地の中に浮いている。そして　それら市街地の中心軸を南北に加茂川が貫き、北の上加茂・松ヶ崎　そして比叡山へとつづく。

ここからは市街地を取り囲む京都五山の送り火床がすべて見え、その背後の比叡山　鞍馬・北山　愛宕山・西山そして南西の天王山・ホンポン山の北攝連山と生駒山・八幡の山の切れ目から淀川が大阪へ　そして南には淀・伏見の市街地が切れ目なく続く。

京都　東山　将軍塚より　京都市街地全景　2006. 2. 9.

京都市街地を貫く加茂川　右手中央出町で鴨川　高野川に分かれる
中央左　御所　中央奥　舟形・右松ヶ崎妙法五山の火床が見える

京大・・神楽が丘から松ヶ崎遠望

銀閣寺・修学院・比叡山遠望

京都駅周辺から北攝の山並み遠望

聞いてはいましたが、今見る京都全体の展望　特に加茂川を中心軸として町全体が見渡せる場所はこの将軍塚しかなく、正面の御所　そして左右に広がる京都の街、自分か街の中心の高台に立ち街を指揮しているような錯覚に陥る。
桓武天皇もこの地に立って　そんな感覚をあじわったのではないだろうか・・・・。
そして　眼下に広がる平安京の守護を坂上田村麻呂の霊に託したのではないだろうか

坂上田村麻呂は武人であるばかりでなく、清水寺建立にかかわった宗教人でもあった。
そして　坂上田村麻呂のアテルイ助命嘆願の歴史書記述がほとんど人物像の記録がない蝦夷の族長アテルイ人物像を浮かび上がらせた。そうでないとアテルイも「悪路王」として悪者としてしか記述されず、東北の人たちが共感する人物像が浮かび上がらなかっただろう。
坂上田村麻呂は単に策略を弄した武人ではない優れた大人物　彼とアテルイの交流がなければ東北の長きに渡る混乱は収まらなかっただろう。
そんな功績が将軍塚として京都に残り、また　アテルイに強い近親感を持つ東北秋田にも将軍野や将軍通といった地名として残っている。
一度登って　ゆっくり京都の街をみたかつた将軍塚　アテルイの顕彰碑に書かれた碑文などを思い起こしながらそんなことを考えていました。30 分ほどすわりこんで、眼下の京都を眺めた後、大日堂山門前に咲く椿をくぐって　そのまま東山を北へ向かって、静かな林の中のトレイルをぶらぶら歩いて粟田口に降りる。
サクサクと落ち葉のじゅうたんが本当に気持ちがいい。

大日堂入り口周辺の椿

将軍塚から北へ　静かな林の中のトレイルが続く　　2006.2.9.

30 分ほどで平安神宮の赤い鳥居が見え出すとまもなく粟田口の市街地に降りる。

トレイルはそのまま山裾を蹴上に出て東山を鹿ケ谷・大文字山を経て比叡山へと続くが、粟田口から今歩いてきた東山を眺めながら山裾を知恩院・円山公園の方へ引き返す。この山裾の粟田口からの道もお寺が立ち並んで静かな散策が出来る。

円山公園から見た東山　華頂山周辺

将軍塚の大日堂を所有する青蓮院門跡をすぎると知恩院の大きな山門。山門に大きな「華頂山」の額がかかっている。その背後になだらかなお椀形の山が見えるのが、先ほど上ってきた将軍塚のある華頂山。円山公園　八坂神社の門をくぐると祇園石段下。　清水寺から約 3 時間弱　あっというまに　また市街地に戻ってこんなに簡単に東山を歩けるなんて思いもよらなかったと振り返りながら遅い昼食。

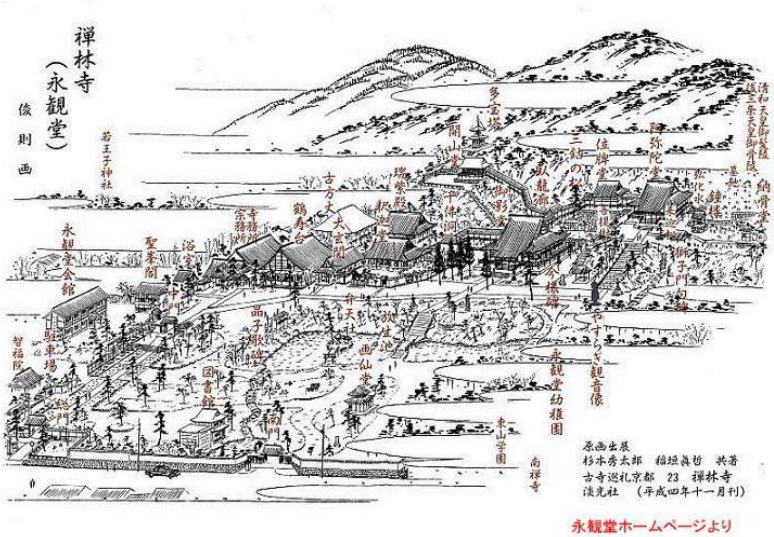
念願のアテルイの碑にも会えたし、田村麻呂の将軍塚からほんと天下を取ったような気分で京都も見下ろせたし、満足のハイクでした。
京都の街中の散策もいいですが、お勧めの東山ハイクです。

粟田口から知恩院・祇園石段下へ
上段: 神宮道　粟田神社　白川小　校門　青蓮院
中断: 円山公園から東山　知恩院山門
下段: 八坂神社石段下　祇園・四条通

昼食後　今度は　平安神宮の東　東山若王子山の山麓　永観堂の見返りあみだ様に会いに行く。

2006.2.9.午後　祇園で

1.2.　永観堂　みかえり阿弥陀さまを訪ねて　東山　若王子三山麓



２月９日　午後

「プイッと横向く阿弥陀さま」

「ぽかぽかと心温まるゆたんぽのような仏さま」

（はな著「ちいさいぶつぞう　おおきいぶつぞう」より）

に胸膨らませて出会いに行きました。

午前中に歩いた東山　将軍塚をさらに北に連なる峰若王子山の山裾　ちょうど平安神宮の東、銀閣寺から法然院を抜けて南禅寺に抜ける白川疎水沿いの散策路のほぼ中間　学生時代によく歩いた界隈である。市内から市バスに乗って東天王町の角で降りて東山へ。昔秋紅葉の頃には永観堂と書いた丸いプレートをつけた市電が直角に曲がるコーナーである。

幾度か訪れた東洋陶器の住友大コレクションのある泉屋博古館・芳泉堂のところから南へ曲がって少し行ったところが永観堂。そのままま っすぐ南へ行くと南禅寺・蹴上への道である。道筋は昔のままで、直ぐ学生時代に戻ってしまう。でも　建物の様子は随分変わっているようだ。

神戸住吉にあった住友資料館が博古館の向かいに来ていました。

10 分ほどで、永観堂の前に出る。このあたりはちょうど観光スポットの狭間で、紅葉の季節を除いては今も静かなものである。

永観堂界隈と永観堂の山門　　2006. 2. 9.

みかえり阿弥陀如来　　永観堂の山門　　みかえり阿弥陀仏の写真が貼られた中の門

「きれいな土塀があったかなぁ」と歩くと山門前　「みかえり阿弥陀如来」の大きな石碑がある。
随分　印象が違う。　わたしの学生の頃はどこからでも寺域の庭の中に入れて、庭には大きなショウギが置かれていて、横の茶店でお茶が飲め、山内の建物を巡ってあちこち自由に歩けたのですが・・・・。
拝観口で拝観料を払って　白砂の敷かれた境内の中、東山をバツクに奥の高台に塔が見え　その前の建物　庭をみると良く手入れされているが、頭の中にあるイメージといっしょでほっとする。
でも　「みかえりの阿弥陀さま」まったく記憶なし。

永観堂の境内　2006.2.9.　　本堂に並んで一番北の奥に塔　南の奥高台に修復中の阿弥陀堂（写真中央）

すぐに本堂に上がつて中を拝観する。　はなさんの本にも書かれていましたが、中々阿弥陀さまに近づけない。
釈迦堂から渡り廊下を渡って御影堂をから　渡り廊下をまたわたって奥へ奥へ。
国宝・重文の仏像・障壁画・襖絵が順路に沿って見られるのですが、今日はやっぱり「みかえり阿弥陀さま」。
　多宝塔がきれいに見える渡り廊下を渡って、すこしめぐったところが、阿弥陀堂。建物は修復中でしたが、暗いお堂の正面　黒いお厨子の中に阿弥陀さま。真っ暗な周囲の中に横向きの阿弥陀さまの立ち姿がありました。
一躯像高　77cm 平安後期～鎌倉初期の作。「みかえり阿弥陀」として知られる永観堂禅林寺の本尊像である。
左肩越しに振り返り、「永観、おそし」と声をかけられた。そのお姿がぼっと浮かんで素晴らしい。
正面から横にまわると厨子に取り付けられた窓から、真っ暗な中からじっとこちらを見つめるお顔に立ちすくんでしまいました。永観堂のシートに書かれた言葉が静かに心にしみてくる。

「みかえり阿弥陀如来」のお姿を現代風に解釈すると、次のようになろう。
自分よりおくれる者たちを待つ姿勢。
自分自身の位置をかえりみる姿勢。
愛や情けをかける姿勢。
思いやり深く周囲をみつめる姿勢。
衆生とともに正しく前へ進むためのリーダーの把握のふりむき。
真正面からおびただしい人々の心を濃く受けとめても、
なお正面にまわれない人びとのことを案じて、
横をみかえらずにはいられない阿弥陀仏のみ心。

永観堂ホームページより
http://www.eikando.or.jp/mikaeriamida.htm

拝観の前に茨木キリシタンの郷「千提寺」の「マリア 15 玄義図」を見たこともあって、イタリア旅行で見たテイツァーノの「聖母被昇天」の絵やアッシジの聖フランシスの一生を描いた壁画をダブらせていました

イタリア旅行で見た「マリア被昇天」・アッシジ「聖フンシス」

真っ暗なお厨子の中からこちらをじつと見つめるお顔が本当に印象的
永観堂の小冊子にきざまれていた「みかえり阿弥陀」の姿勢が心にしみてくる。

気になって仕方なかった「みかえり阿弥陀さま」本当に拝観できてよかった。
やわらかいひざしの中　静かな境内を戻りながら満足感でいっぱいでした。

2006.2.9.夕

京都東山　陽だまり　ハイク

アテルイの足跡と見かえり阿弥陀様を訪ねて

●伝説　永観堂　見かえり阿弥陀さま　の由来

●東北の雄「アテルイ」と征夷大将軍　坂上田村麻呂

1.1.　清水寺から将軍塚へ東山をハイキング

1.　清水寺　清水の舞台から蝦夷の雄アテルイ・モレの顕彰碑へ

2.清水寺から東山を登って坂上田村麻呂の将軍塚へ

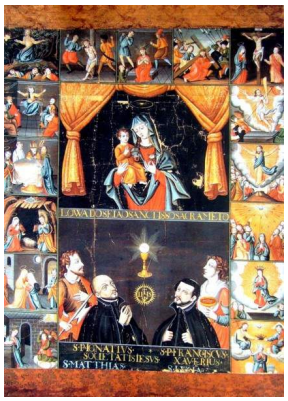
3.将軍塚からの京都展望

1.2.　永観堂　みかえり阿弥陀さまを訪ねて

【完】

2. 「キリシタンの里　千提寺」Country Walk と「マリア十五原義図」展

大阪府茨木市　千提寺　　2006. 2. 8.



「マリア十五原義図」とそれが発見されたキリシタンの里　北摂の山郷　千提寺集落

1.　キリシタンの里　「千提寺・音羽」を訪ねて　Country　Walk
　1.1.　キリシタンの里　「千提寺」Country　Walk
　1.2.　キリシタンの里　「音　羽」Country　Walk
　1.3.　北摂連山にひっそり埋まっているキリシタンの里を歩いて
2.　「マリア　十五玄義原義図」
　京大総合博物館「マリア十五原義図」展　小冊子より

戦国時代　大阪府高槻のキリシタン大名　高山右近の領地であった北摂連山の山中「千提寺・音羽」集落がある。交通の便が随分よくなったとはいえ　そこは今もひっそりと山に埋まって暮らすキリシタンの里である。

1919 年この茨木市山間の千提寺の民家から神戸市立博物館にある有名な聖画「ザビエル像」やかなり損傷したほぼ完全な「マリア十五原義図」はじめ数々のキリシタン遺物が発見され、さらに昭和 5 年下音羽の民家の屋根裏から代々受け継がれたキリシタンの象徴「マリア十五原義図」などが発見された。

下音羽で発見され、京大にあったこの「マリア十五原義図」が修復され　この 2 月京大博物館で公開されたのを機に今まで訪行く機会のなかったこのキリシタンの里「千提寺・音羽」集落を訪ね
そして「マリア十五原義図」展を見てきました。

キリシタンの里千提寺の集落　2006.2.8.
中央　カソリック黙想の家のさらに奥に集落があり、
右手がキリシタン墓標が発見されたクルス山

弾圧の歴史の中でひっそりと生き抜いてきたことを象徴するような北摂の山中のまたその山かげの木々に埋もれた隠れた里　歩いてみて初めて判る「キリシタンの里」でした。でも　交通の便もよくなり　そこに住む住人にとっては「キリシタンの里」はもう遠い昔なのかもしれない。

深い山里ではありますが、明るい裕福な里を感じて帰りました。でも　本当に一人　ゆったりと風来坊するには素晴らしいところでした。

また　「マリア十五原義図」は聖母子像の下にザビエルら 4 人の聖人が描かれ、そのまわり 15 の絵が配置され、受胎告知に始まるイエスとマリアの生涯が描かれている。原義は「神の教え」　キリシタンが祈りを捧げるときに掲げたと見られる。同じような聖画はイタリヤ旅行などで、数多く見ましたが、ちょっと違う日本的な顔立ちに親しみを覚え、ついつい引き込まれてゆく。
マリアの手に持つ花は「白バラ」ではなく「ツバキ」と考えられるなど「」17 世紀の初め日本人の手による作と見られており、国の重要文化財。

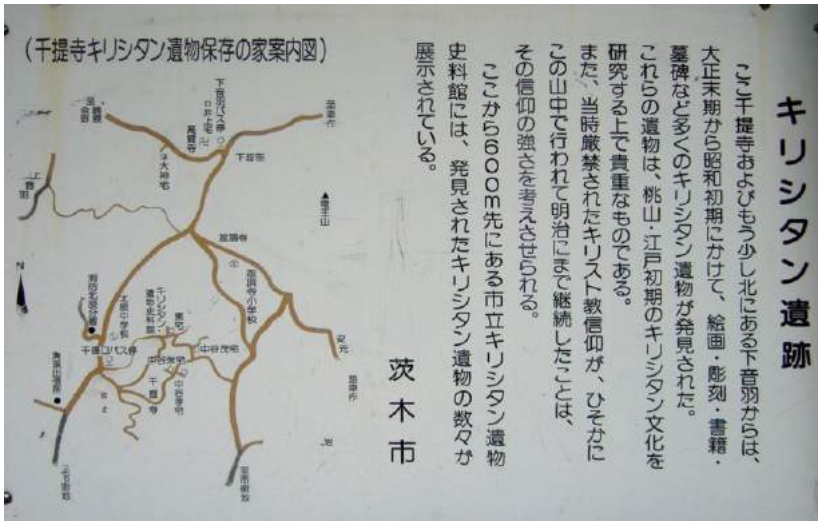
2.1.　キリシタンの里　千提寺・音羽集落　Walk

1.　千提寺　Country Walk

2006.2.8.　天が降り出しそうな曇り空。　まだちょっと寒い JR 茨木駅に降り立つ。
「バスがあれば良いが、なければタクシ。場所は亀岡へ行く途中の千提寺　地図を持っているからどうにかなるやろ」といつもの風来坊。
駅前の千提寺口・忍頂寺方面のバス停にバスが停まっている。　グッドタイミングで 1 時間に一本の「忍頂寺」行のバスに乗りこむ。茨木の市街地を離れ、北摂の山裾を過ぎて　山の中に入ってゆく。市街地が随分山裾まで広がっているが、それからは山間の中のジグザク道を登ってゆく。点々と集落があるが、ここここも茨木市と思うほど山間をぬけてゆく。
路線図で千提寺口のバス停をみつけてほっとする。茨木から 30 分ほどで点々と小さな集落がある広い谷筋にでて箕面から合流する「泉原」のバス停を過ぎると次が「千提寺口」。

千提寺口バス停前　　千提寺には坂を登って東へ山越えである

バスが行ってしまうとぽつんと一人取り残される。バス停の傍の山際にキリシタン遺跡の案内図があり 600m ほど行けば千提寺の集落にあるキリシタン遺物資料館と書かれていて、東に入る道路にキリシタン遺物資料館の案内板。　直ぐ近くと歩き出したのですが、これが山越えの道。



千提寺の集落は千提寺口側の枝尾根を乗越した向こう側。ぶらぶらと坂道を登り、反対側の山肌に沿って曲がりくねった道を下って集落に入る。集落といっても　小さな丘と丘の間の奥に山の斜面にへばりついた家々がぽつん　ぽつんとあり、まとまった集落は見えない。本当に隠れ里の名がぴったりである。両側の山際の竹林が心地良く迎えてくれる。

キリシタンの里　千提寺の集落　　2006.2.8.

中央奥に見えるカソリック黙想の家の前を回りこんで登ると千提寺の中心集落

山際の道をくだりきって、緩やかに山腹を回りこみながら先へ道が続くき、斜面の反対側のくぼ地には段々によく手入れされた畑が広がっている。この道が千提寺のメイン道路である。

　そんな山際　丘と丘のきれ目のくぼ地へ入る入り口にキリシタン遺物資料館への案内板があり、この奥がキリシタン遺物資料館　右手の小さい丘が古いキリシタンの墓標が見つかっているクルス山と知れる。

ここを曲がって正面奥に山をバックに大きな建物が見えるので、これが資料館と思いましたが、カソリックの黙想の家。入り口の正面に高山右近の像がありました。

カソリックの黙想の家とその入り口に立つ高山右近像　　2006.2.8.

この黙想の家をぐるりと回りこんでさらに上へ5分ほど登ってゆくと周囲を山腹に包まれた小さな丘の上

戸数十数戸の千提寺集落があり、その中にキリシタン遺物資料館がありました。そして隣がこの千提寺がキリシタンの里と知られるきっかけになった聖画「ザビエル像」や「マリヤ十五原義図」など数々のキリシタン遺物が発見された東家だった。

キリシタンの里　千提寺　　2006.2.8.

写真下　左:茨木市立キリシタン遺物資料館　右:数々のキリシタン遺物が発見された東家

まったく人影もなく、車も上がってこない平日の静かな昼下がりのキリシタンの里。
あいにく　火曜日でキリシタン遺物資料館も休み。資料館横に座り込んで、静かなひと時をすごす。

風来坊なので　当たり前なのですが、この千提寺の集落を見つけるまで、本当に裏切られ派なしであった。
最後の坂を登るまで、まったく集落は山の中に隠れて見えない隠れ里
千提寺口の案内板「ここから６００m先にキリシタン遺物博物館がある」というのと本当に程遠い。
車でカーナビ使って　間違わずに来れば　サっと来られるのでしょうが・・・・・
今日ほど「隠れ里」を意識したことなし。これは歩かないと判らない。

この集落は本当に隠れ里を意識したのか　逆に　こんな隠れ里だったため３００年にわたって発見されずにすんだのか・・・・・どちらだろうか・・・

帰って google の衛星写真や地図と照らし合わせながら調べると山は低いのですが、山また山の中。そしてそんな山中の街道筋からさらに枝尾根を乗越して分け入り　もうひとつ山を回りこまないと集落に行けず、どこからも集落は見えない。

判っていれば　ちょっと歩けばいいだけで、すごさはないのですが・・・・

昔は　おそらく　外の人にとっては　全くきずかない里だったのだろう。
まさに隠れ里である。

切支丹の里　千提寺　　2006.2.8.

キリシタンの里　　隠れ里　千提寺　音羽の位置

千提寺の地名も当初　この集落の中にお寺があると思っていましたが、どうもお寺はなくキリシタンのカモフラージュではないかと言われている。

イエズス会独特の十字架といわれる二支十字（干）を表す「千」と聖母を象徴する「菩提樹」の「提」に山人の目を逃れるために「寺」をつけたといわれる。

先ほどの「黙想の家」のところまで戻り、左へ山の斜面に沿って　クルス山へ入る。

もうほとんど人が入っていない雑木林の中　小さな小屋の中にキリシタンの墓碑がひっそり立っていました。

千提寺　通称クルス山の雑木林の中にあるキリシタン墓碑　　2006. 2. 8.

2. 下音羽　Country Walk

また　クルス山の山裾を東へ千提寺の本道から千提寺集落の山の東側を南北に走る街道筋に出て、忍頂寺へ向かう。

そこから　もう一つのキリシタンの里　「下音羽」の集落を訪ねてから、さらに上音羽にでて、山を隔てて西の街道筋を下って千提寺口へ戻る予定で忍頂寺へ向かう。　天気も回復して　気持ちのよいハイキング。

３０分足らずで忍頂寺の集落。

千提寺の東側の街道筋

忍頂寺の門前が峠　　門前の医師団を登り忍頂寺の門をくぐって竜王山への登山路がある

ここは忍頂寺の門前の集落で　千提寺口から真っ直ぐ北に登ってきたバス道と合流して、ここから山間をカーブ

しながら下音羽へ下ってさらに亀岡の峠へと登りの街道が続いている。
門前の直ぐ下から正面の尾根を越えて下音羽から長谷への旧道がキリシタン自然歩道として整備されているのが見えたので、街道筋を歩かず　こちらの山道を行く。

忍頂寺から下音羽・長谷へと続くキリシタン自然歩道

１５分ほどまた　山の中を歩いて、尾根を乗越すと一面段々畑となっている盆地状の広い谷筋が見え、北の山裾を忍頂寺から続いている街道筋を車が走っている。そして　正面に見える小さな集落が下音羽。
尾根の斜面を南側に回りこみながら下って下音羽の集落の端に出る。

キリシタン自然歩道より　　下音羽周辺
右の山の裏から回り込んできた忍頂寺からの街道筋　そして左端の森が下音羽の集落の端

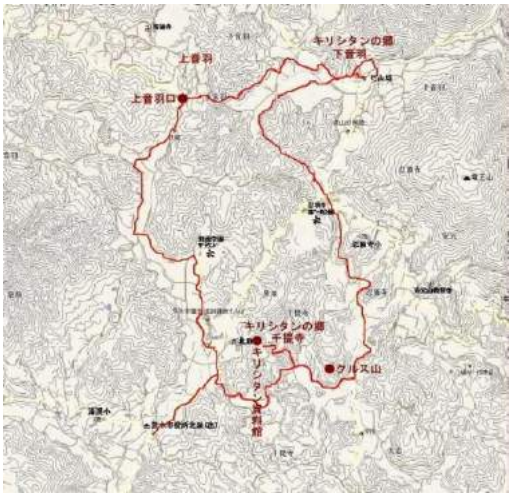
段々畑をトラバースしながらこんもりした森が見える下音羽の集落の端を目指す。
ちょうど森になっているところが小さな丘になっていて、鎮守の森。そして　この森の背後と西側の山の斜面との間の狭いところに集落があり、集落が奥に伸びる入り口のところに厨子入象牙掘キリスト磔刑像発見の解説板があり、土地の人に聞くと直ぐ隣の大神さんのところから発見されたという。
この細い道を入ってゆくと何軒も大神姓の家があり、代々続いてきた家なのだろう。

下音羽の集落とその入り口のところにある厨子入象牙掘キリスト磔刑像発見の解説板

この地も　千提寺ほどではないが、集落は山の斜面と鎮守の森で街道筋からは隠れた場所にあり、やっぱり隠れ里。ここでも　ひっそりとキリシタンたちが暮らしてきた。
この下音羽から西尾根筋の山影の斜面にへばりつくように上音羽へ民家が点々と続いている。
今回　京大博物館で公開された「マリア十五原義図」はこの下音羽の集落の屋根裏から竹筒にしっかりしまいこまれて発見されたという。
鎮守の森のところから西へぽつぽつ民家が見え隠れする山の斜面を登って上音羽へ
石垣の立派な家のところから集落の中をジグザクの急な道を登ると交通量の多い西の街道筋に飛び出し、直ぐ横に上音羽のバス停。この街道筋は茨木・箕面から亀岡に抜ける街道筋で反対側に下ると千提寺口から泉原に戻る。

上音羽の集落と街道筋　上音羽のバス停付近

3. 北摂連山にひっそり埋まっているキリシタンの里を歩いて



バスの時間が合わないので、今日歩いたキリシタンの隠れ里を思い出しながらぶらぶら約１時間ほどで千提寺口を通って泉原へ下る。結局　千提寺の山郷を中心にぐるりと回りの街道を一周したことになる。
　茨木からほんのバスで３０分の山中であるが、「隠れ里」とは　こんなところを言うのだろう。歩かなければ　本当に知らずに見過ごしてしまう　外部からは見えない場所でした。
山口県の山中　キリシタンの隠れ里長門峡・福栄村や平戸・早月島の教会を訪問しましたが、こんなにも隠れ里を意識しませんでした。
隠れキリシタンとして信仰を守り通すことの厳しさをつくづく感じると共によくもこんなにうまい場所をみつけたと一方ではすがすがしさも感じました。
　隠れ切支丹という暗さはまったくなく明るい谷間のミステリーWalk をやったというのが本音。
このキリシタンの里　車ではダメ。　ゆっくりと一人歩くには　お勧めのフィールド。

2006.2.8.　ぶらぶら千提寺口へ下りながら

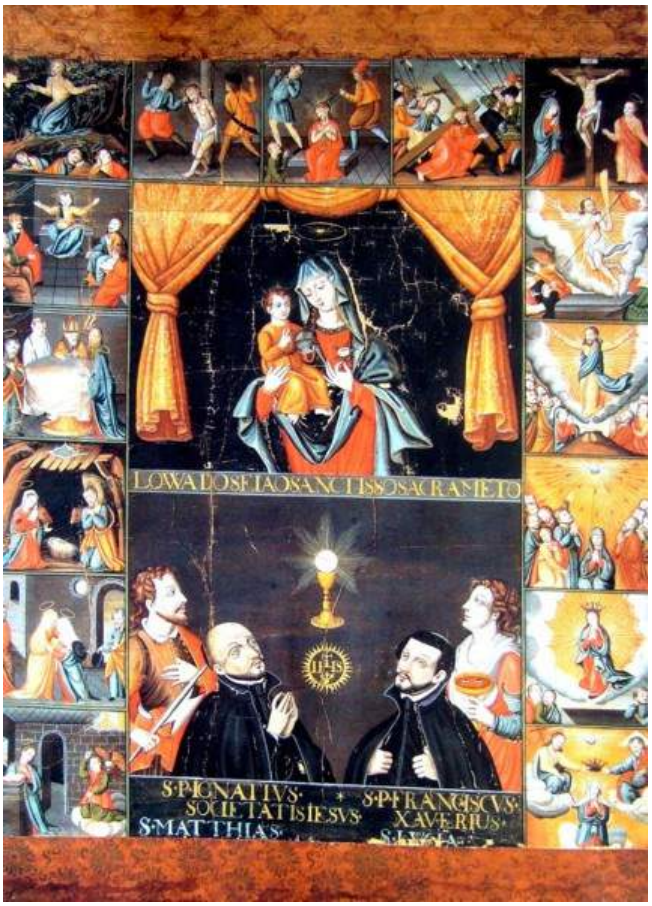
Mutsu　Nakanishi

追　記

千提寺には JR 茨木駅から阪急バスで出掛けましたが、１時間に一本しかなし。
千提寺口で知ったのですが、大阪　千里中央駅から箕面を通って千提寺口へ出る方法もあり。
こちらの方がバスが少し多そう。帰りには千里中央へ帰りました。

2.2.　「マリア　十五玄義原義図」

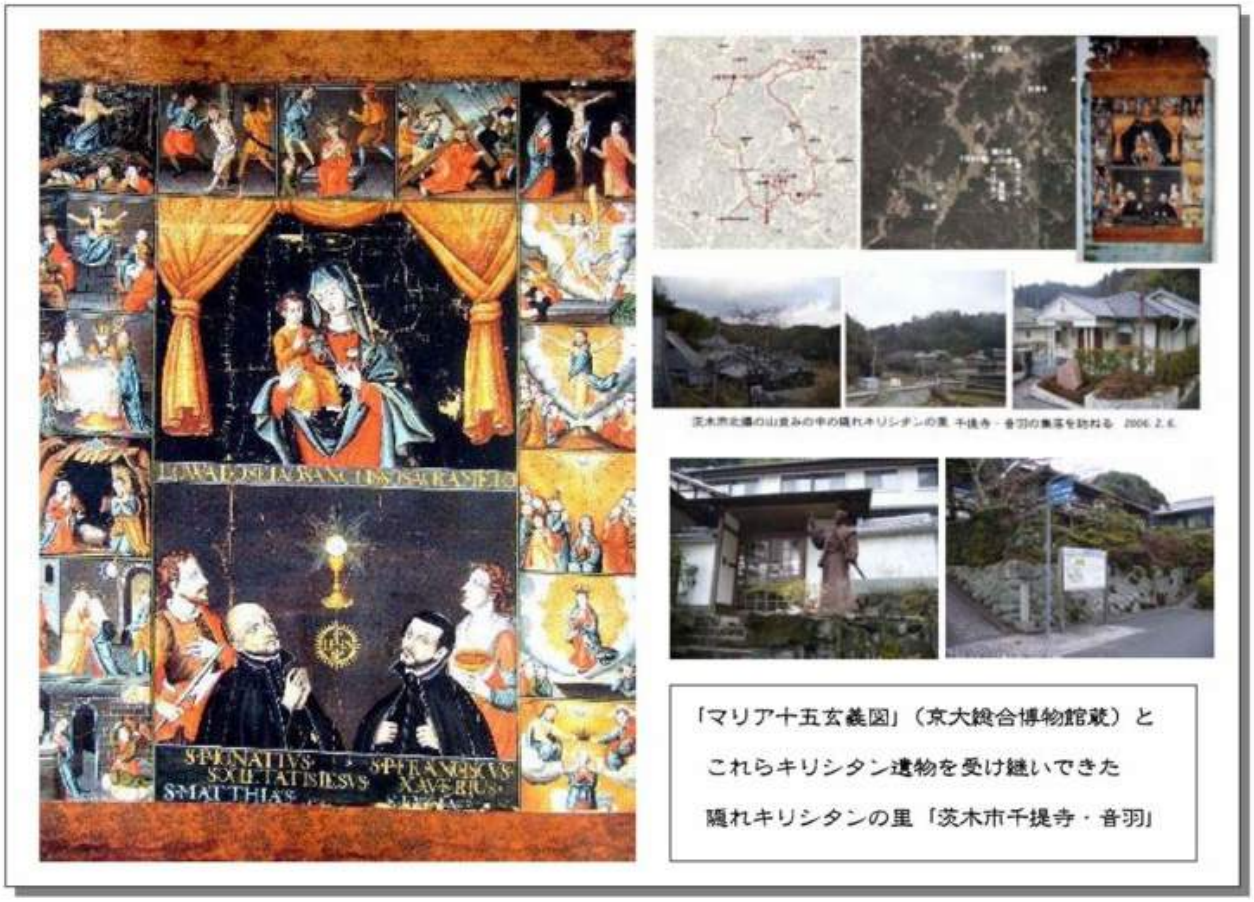
京大総合博物館「マリア十五原義図」展　小冊子より



「マリア十五原義図」は聖母子像の下にザビエルら 4 人の聖人が描かれ、そのまわり 15 の絵が配置され、受胎告知に始まるイエスとマリアの生涯が描かれている。
「玄義」は「神の教え」　キリシタンが祈りを捧げるときに掲げたと見られる。

マリアの手に持つ花は「白バラ」ではなく「ツバキ」と考えられるなど「」17 世紀の初め日本人の手による作と見られており、国の重要文化財。

1930 年　茨木市の山間　キリシタンの里　下音羽　原田家屋根の葦中　竹筒からほぼ完全な保存状態で発見され、現在京都大学蔵。



マリア十五玄義図に描かれた「イエスキリストとマリア二人の生涯」

京都大学蔵「マリア十五玄義図」より

「喜びの玄義」

告　知　　訪　問　　生　誕　　奉　献　　神殿でのキリスト

「苦しみの玄義」

ゲツセマネの夜　　むち打ち　　茨の戴冠　　十字架運び　　磔　刑

「栄光の玄義」

復　活　　昇　天　　聖霊降臨　　被昇天　　戴　冠

マリア十五玄義図に描かれた「イエスキリストとマリア二人の生涯」　解　説

聖母子十五玄義

幼児キリストを抱くマリア像を中心に、15の絵が配置される。15の絵は左下から時計回りに、「喜び」「苦しみ」「栄光」の3部に分かれ、マリアへの受胎告知に始まる2人の生涯を描いている。15の絵それぞれには祈りの言葉があり、キリシタンは、ロザリオと呼ばれる数珠を繰りながらそれを称え、聖母マリアに祈りを捧げた。「マリア十五玄義図」という名称はここからつけられた。玄義とは、神の啓示によってのみ知ることのできることから、という意味。

「喜びの玄義」

【第一図】告　知

天使ガブリエル、マリアに受胎を伝え、生まれた子にイエス（神が救うという意）と名付けるよう告げる。白い鳩は、聖霊であろう。聖霊は、神意の啓示を伝達でき、精神活動の活力をもたらすもので、父なる神・子なるキリストとともに三位一体をなすと考えられている。

【第二図】訪　問

マリア、親戚エリザベトを見舞う。マリアの懐内を聞いたエリザベトは聖霊に満たされ、ユダヤベトの町の子もまた胎内におどる。

【第三図】生　誕

マリア、夫ヨゼフが見守る中、ベツレヘムの馬小屋で子を産み、イエスと名づける。頭上の星は、救世主誕生のしるし。

【第四図】奉　献

マリア、ユダヤ教の律法に従い、誕生から40日目に、エルサレムの神殿でイエスを神に捧げる。このとき、祭儀は、信仰篤い老人シメオンにより、イエスがこれから行うであろう救いの業と苦難するはずの苦難とを預言される。左端の光輪を持つ男は、ヨゼフ。

【第五図】神殿でのキリスト

イエス、ヘブライの習慣に従い、12歳のとき両親とともにエルサレムへ詣る。帰途にイエスを見失った両親が探すこと3日。エルサレムの神殿で学者たちと討論しているイエスを発見する。

「苦しみの玄義」

【第六図】ゲツセマネの夜

イエス、ゲツセマネの園で祈りを捧げる。この直後、ユダの裏切りにより、イエスはとらわれの身となる。十字光輪を持つ2人の男は、目を覚まして待てというイエスの言に反して眠ってしまった2人の弟子、ペテロ・ヤコブ・ヨハネであろう。

【第七図】むち打ち

とらえられたイエス、柱に縛り付けられ、鞭打ち、こぶしで殴られる。

【第八図】茨の戴冠

イエス、赤い衣を着せられ、茨の冠を頭にかぶせられる。

【第九図】十字架運び

イエス、十字架を担い、ゴルゴタへ向かう。本図のイエスは赤い衣のままであるが、聖書では、十字架を担ぐ前に赤い衣を脱がせられ、元の服を着せられている。

【第十図】磔　刑

イエス、十字架にかけられる。十字架の左は、聖母マリア、右は、聖母を自らのほとするよう託された弟子ヨハネであろう。

「栄光の玄義」

【第十一図】復活

イエス、死の3日後復活する。武器や盾を持ったたち人は、生前のイエスが残した復活の預言を聞いて、墓に付けられた番兵であろう。

【第十二図】昇　天

イエス、弟子たちに最後の教えを説き、両手をあげて祝福している様子を表す。

【第十三図】聖霊降臨

赤い炎の中に、聖母マリアと使徒の姿とともに聖霊の降臨を示す。頭上に翼をはめられた鳥は、はげしい風の音とともに現れた炎のような舌が弟子たちの上にとまり、現れたいちいちの炎の舌は聖霊を注ぎたもうという聖書の記述を思わせる。天使群はユダヤ教の大祭日の一つで、五十日祭を祝う様子である。

【第十四図】被昇天

マリア、肉体のまま天上に昇る。マリアの頭上にはすでに冠が輝く。が、マリアの眼は昇天後であり、喜びである。

【第十五図】戴　冠

マリア、父なる神（右）と神の子イエス（左）の手により戴冠する。聖母マリアの生涯のクライマックス。天上の女王マリアの誕生である。

3.　弥生の高地性集落　「会下山遺跡」からロックガーデンへ　ハイキング

阪急芦屋川駅-会下山-風吹岩-ロックガーデン-高座の滝-阪急芦屋川駅

egenoyama00.htm by Mutsu Nakanishi　　2006.7.14.

1. 弥生の高地性集落　「会下山遺跡」から　ロックガーデンへ
   - 1.1.　会下山の狭いやせ尾根の上に並ぶ弥生の住居跡　会下山遺跡へ
   - 1.2.　弥生の高地性集落概要と　会下山遺跡の発掘当時の写真
   - 1.3.　会下山遺跡から　魚屋道を通って　ロックガーデンの頭　風吹岩へ
   - 1.4.　ロックガーデンを高座の滝へ下る
2. 弥生の高地性集落　会下山 遺跡　　概　要
3. 高地性集落　会下山の集落の出現　　大阪湾周辺で　何が起きていたのだろうか

ロックガーデン　風吹岩から会下山・大阪湾を望む　　2006.7.14.

阪急芦屋川駅でおりて、北側に連なる六甲の連山を眺めると芦屋川の西側の住宅地のすぐ奥に六甲連山をバックにこんもりとした２つの山が見える。 西側が会下山　東側が城山。　尾根筋を登って　この山の上に行くと芦屋の市街地から大阪湾・淡路島が一望できるという。 弥生時代には　この二つの山の上に高地性集落があり、下の平野部にある集落と交流しながら　大阪湾をみはっていたという。

「芦屋の会下山　知っていますか・・・　会下山の高地性集落遺跡が発見されて 50 年その記念シンポジュームが６月の末にあるのですが出ませんか」と誘いを受け、シンポジュームには出席できなかったのですが、そのシンポジュームの資料をいただいた。
その資料を読んでいて、中学生の頃　この会下山のすぐ下にある山手中学に何度か試合に出かけたことがあって、発掘調査中の遺跡を見た記憶をたどっていました。 山手中学の周辺で発掘がいくつかされて、この周りには遺跡が多いと会下山の名前と共にぼんやりの記憶。 高地性弥生集落遺跡などの言葉も知らず、何とはなしに古い遺跡が山裾にあると・・・・・。

７月１４日朝三宮に出かけようと家を出ると梅雨の中休み快晴。　これは山に行かん手はなし。
予定を変更して　久しぶりに高座の滝・ロックガーデンへ行ってみようとコンビニでペットボトルの水を買って阪急電車に飛び乗る。久 しぶりとはいえ　よく知った場所なので、山手中学目指せは　どうにかなるといつもの風来坊。 梅雨とも思えぬ快晴の暑い日差しの中を会下山に登って高地性弥生集落遺跡を見学。そのまま風吹岩まで登って　ロックガーデンを下って　高座の滝へ下りてきました。ほんとに久しぶりのロックカーデンもこんな

に樹木がおおかったか・・・と。昔の記憶とは随分違っていました。
また　弥生の高地性集落　会下山遺跡も　ひそかに「本当は山中にある弥生の隠れ里　　縄文の暮らしもあったのではないか」などと思っていましたが、登ってみて「こんなやせ尾根の山の上に集落　これは意図的な村だ」とつくづく感じました。

調べてみると　この会下山から大陸と関係の深い「漢式三翼鏃」　と数々の鉄器がが出土している。
資料によると　稲作と鉄が日本に「戦」を持ち込んだといわれ、時代と共にその戦いの対象レベルは違っているが、高地性集落が交流する連合体の監視・通信の役割を担っていた村ではないかと見られている。
弥生時代中期以降　邪馬台国成立・大和王権へと国づくりが進む過程で高地性集落が次々出現する瀬戸内沿岸は自前の鉄をもたぬ日本が　朝鮮半島の鉄を求める重要な鉄の伝来・交流ルートでもあり、渡来人との関係も深く大和王権の確立まで幾多の戦いが繰り広げられたところ。
弥生の高地性集落の出現は邪馬台国成立前史を飾る激動の時代の象徴であるともみられる。

「この弥生の高地性集落を調べれば、鉄の痕跡が見えるのかもしれない」
岡山総社の「鬼ケ城」　伯耆妻木晩田遺跡　　大阪交野生駒山西端交野の高地性集落　いずれもその周辺には渡来人と関係の深い鉄の集団がいた。
弥生の高地性集落にはそんな鉄のつながりがあるのではないか・・・・・との夢を膨らましています。
そんなきっかけになった会下山高地性集落遺跡・ロックガーデン　ハイキングをまとめました。

1.　弥生の高地性集落　「会下山弥生遺跡」から　ロックガーデンへ

阪急芦屋川駅-会下山-風吹岩-ロックガーデン-高座の滝-阪急芦屋川駅

六甲の山々から平野部に出る山裾の傾斜地に高級住宅地が広がり、その中央を流れの急な芦屋川が流れ下る芦屋の山手。
関西では誰もが知っている六甲へのハイキングコースがいくつもこの芦屋川から伸びでいる。
六甲は高度こそ低いのですが、幅の狭い阪神間の平野部から急に立ち上がる連山が続き、しかも花崗岩の風化が進み、急峻な尾根と谷を形成。
中でも　ロックガーデンは　風化が進んだ岩屋まで、関西のロッククライミング発祥の地であるとともに、この急峻な岩山を見ながら六甲の稜線へ登ってゆくハイキングコースがいくつもある。　会下山弥生遺跡は芦屋川からそんなロックカーデンへ上ってゆく入り口の急峻な細い痩せ尾根の尾根筋の山道を30分ほど登ったところにある。
そのまま尾根筋を登ってゆくとロックカーデンの谷筋を右に巻きながら　隣の神戸東灘から六甲を越えて有馬への六甲山越えの古道「魚屋道」と合流して　ロックガーデンの頭　風吹き岩に一時間ほどで出る。
眼下にロックガーデンの荒々しい岩山が並ぶ谷が一望でき、その向こうに大阪湾・淡路島が遠望される。表六甲の代表的な景観である。
今日は気楽に弥生遺跡を見て　ロックガーデンのハイクを楽しむつもり。

1.1.　会下山の狭いやせ尾根の上に並ぶ弥生の住居跡　会下山遺跡へ

阪急芦屋川駅から北に芦屋川に沿って緩やに登ってゆく。
５００メートルほど登ったところ高座川との合流点の手前にある開森橋のところで左に折れて会下山の山裾の住宅地の中に入ってゆく。開森橋からは　芦屋川の正面に城山・その西に会下山の尾根筋がよく見える。
少し登ったところで、高座川を遡って行く高座の滝・ロックガーデンのハイキングコースの道と別れ、そのまま西へ会下山の尾根の方へ登ってゆく。 ここまでくれば、会下山への標識はあるだろうし、山手中学を探せばすぐ会下山の登り口はわかると思っていたのですが、それが間違い。 山手中学の裏手からの道は山手中学の中からしか行けず今は通行禁止。会下山の尾根筋の下に広がる住宅地の中を人に聞きながらグルグル。
やっと旧三条小学校裏の墓場の中を抜けたところに会下山の尾根への上り口を見つけました。

ここからは尾根筋に登る樹林の中の急な山道である。何度か折れ曲がりながら尾根筋の西側の崖に沿ってつけられた山道を登りながら尾根筋の上へ向かう。
有名な遺跡なので遊歩道でもついていると思っていましたか、完全な山登りハイク。でも　久しぶりの山歩きに汗が心地よい。
木々に囲まれ　道はよく整備されているのですが、あまり　ハイキングにはつかわれぬ道、まったく人の気配の感じられられぬ山の中である。 ３０分ほどでやっと樹林の中の尾根筋の上に出る。尾根の上といってもやせ尾根ですぐ向こう側も谷へ落ち込んでいるのが木々の間から見える。
木々の中につけられた尾根筋を少しよじ登ると少し広くなったところがあり、会下山弥生遺跡の案内板があり、尾根の反対側へ少し降りるとさらに広いくぼ地があり、そこに復元された倉庫が建っていた。狭い尾根筋に竪穴住居跡地が 3 棟　下のくぼ地に倉庫と竪穴獣まょ跡地が数箇所木々の間にありました。

尾根筋の上に並ぶ会下山遺跡の竪穴住居跡　　会下山遺跡の中心部　2006.7.14.

尾根の東側のくぼ地に復元された倉庫跡　　2006.7.14.

展望もあまり利かずですが、木々の間から下の山手中学など市街地がちらちら見える。
発掘調査時は３６０度展望の利く禿山のように見えるが、尾根筋には木々がしげって　そんな面影はない。
発掘当時の写真を見ると尾根筋の木々がまだ小さく 360 度展望がひらけ、尾根の形もよくわかりますが、今は尾根全体が木々に包まれ、視界が聞かない。
案内板によると会下山高地性弥生集落遺跡はおよそ２０００年前の紀元前 1 世紀から紀元 1 世紀にかけての弥生時代の高地性集落。
大阪湾を眼下まじかに見下ろす標高 160m～200m の山頂尾根に４０人前後の人々がすみつき､炊さんをともにして、低地の村々とも交流しながら、海上交通の見張りなど活発な社会生活を送っていたと考えられている。
発掘当初は 2 世紀末「倭の大乱」の時代　群立する国と国との対立の備えの集落と見る説もありましたが、それよりも以前の時代　かぎられた地域間たとえば川筋を単位とする利水・灌漑をめぐる争いなどの備えであったとも見られる。
いずれにしろ　山裾に水田耕作の集落が広がる中　意図なしでこんな山の中に隔絶した集落は存在しなかったと見られ、やはり、戦いの備えや戦いの集団祭祀の場などであったと考えられている。
尾根筋をさらに上へ登った一番高いところに祭祀跡があり、おそらく弥生の時代にはもっとよく展望が聞いたのでしょうが、ここからは　木々の間から、大阪湾までの展望が開けました。

尾根筋の一段高い頂上部に祭祀跡の案内板

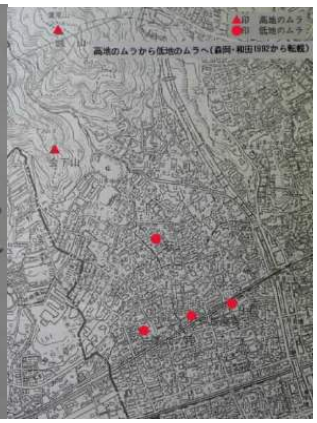
その周辺からは下の市街地・大阪湾が遠望できました　　2006.7.14.

1.2.　弥生の高地性集落概要と　会下山遺跡の発掘当時の写真

会下山遺跡発掘５０周年記念シンポジュウム資料「会下山から邪馬台国へ　高地性集落の謎と激動の弥生社会」より

高地性集落　会下山遺跡の位置と尾根筋の出土遺構の配置図

発掘当時の会下山遺跡周辺の写真



弥生時代の西阪神の集落分布　＆ 会下山遺跡と平地部の集落

弥生時代の高地性集落は平地の集落と連携しつつ、瀬戸内の見張りなどの任務を担っていと考えられる。
この会下山遺跡の下の平野部一体には水田耕作の集落が点在し、これらの平野部の集落と高地性集落とは交流があったと考えられている。

また、銅鐸がこの表六甲の山々に数多く持ち込まれて埋められているのも、この地が畿内の端・瀬戸内海の東端にあたることによると考えられ、この地の高地性集落の役割で゛ある異なる勢力の監視などと絡んでいたのかもしれない。
　鏃のささった人骨がこの大阪平野のあちこちで見つかっていることなどから、規模はよくわかりませんが、この地域で戦いがあったことは間違いない。

会下山遺跡に立つまでは
　「平野部は湿地が多く、災害に弱いし見通しも悪く住みにくいのではないか・・・・
　　むしろ縄文のスタイルを捨てきれずにいる民が山と平野 2 つの村を行き来していたのではないか・・・」
などと考えていました。

でも　会下山遺跡は急峻な瘠せ尾根の上でこの尾根の東に沿う谷はロックガーデンの岩場が続く急峻な谷。
とても耕作に適しているとは思えないし、また、頻繁な往来・物流には向いていない。
会下山の下で発掘調査をしていた学芸員の人によれば、同時期にすぐ下の平野部には水田耕作の集落が幾つも展開されていたという。
一番頂上の物見には祭祀の場の石組みも残っている。また、ノロシ場かもしれぬ焼土坑も見つかっている。
やっぱり、瀬戸内海の見張りの集落か・・・・弥生中期以降　この大坂湾沿岸の平野部で数々の戦いがあったことは武器の刺さった戦死者の墓の急増で理解される。

大規模な灌漑設備と開墾による稲作が急発展し、鉄器が急速に増加するのもこの時期である。
水田耕作の拡大には灌漑・利水の大規模な土木工事が必要であり、鉄器の使用は比すであり、また　この灌漑・利水は川の流域を単位とした地域間紛争を巻き起こしたに違いない。

発掘時の会下山遺跡から大阪湾を望む

会下山の頂上部　祭祀跡のある周辺
昔はもっと広く大阪湾や阪神間の平野部がよく見えたのだろう

1.3.　会下山遺跡から　魚屋道を通って　ロックガーデンの頭　風吹岩へ

阪急芦屋川駅- 会下山 - 風吹岩 - ロックガーデン - 高座の滝 - 阪急芦屋川駅

会下山の最上部を超えてさらに尾根筋をつめると少し下って鞍部に出て、再度西へ木々の中の尾根筋を登ってゆく。 傾斜は穏やかになり、道端に大きな岩が見えてくる。蛙岩といわれる場所で、ここで神戸東灘から登ってくる「魚屋道」に合流する。　東灘から六甲を越えて有馬へ結ぶ古道　昔の六甲越えの幹線道路である。

蛙岩周辺　　蛙岩と蛙岩周辺で合流する魚屋道　　2006.7.14.

少し道幅がひろくなり、緩やかな魚屋道をさらに登ってゆく。

急に岩が露出したゴツゴツの岩の間を抜けて行く道となり、ところどころで、海岸側や六甲側の視界が開ける。

会下山遺跡から 1 時間ほど　さらに岩がごろごろ転がる山道を登りきり、大きな岩山の横を回り込むとぱっと３６０度展望の開ける「風吹岩」の横に飛び出した。

魚屋道を通って　風吹岩へ　　岩肌むき出しのゴロゴロ道になると風吹岩は近い　　2006.7.14.

阪神間の市街地・大阪湾遠謀　六甲最高峰や六甲連山がすぐ近くに見える

会下山遺跡から約１時間ほどで大阪湾の大パノラマが見える展望台　風吹岩に　2006.7.14.

さすがに表六甲のハイキングコースの十字路　多くのハイカーが風吹岩の上に立って、360 度の展望を楽しんでいる。
眼下にはロックガーデンの岩峰が連なり、その向こうに大阪平野・大阪湾の大パノラマが広がっている。
登ってきた会下山・城山がはるか下のほうに見える。後ろには六甲の最高峰など連山が壁のように並んでいる。
　ロックガーデンはもっと荒々しい岩が並んだ景観で、その岩に登るクライマーが見えていた記憶があるのですが、今は緑の中に岩山が埋没して、かつての荒々しさがなくなっている。
植林が進んだのが原因だとおもうのですが、私の印象の違いだろうか・・・・・・

ロックガーデン　　風吹岩より　　2006.7.14.

展望を楽しんでいると猪れも３頭がハイカーを恐れることもなく、屏風岩の展望台へ悠然と歩いてゆく。
六甲の猪はよく慣れていてリックサックとって行くといわれるが、人の集まるところを猪もよく知っている。
この場所に来るとえさがもらえる。サルの餌場のようなものである。
おばちゃんのハイカーによるといつもこの場所に猪が寄ってきて、えさを少し持ってくるという。驚きました。

屏風岩に現れた猪　まったく人によくなれ　怖がらない　　2006.7.14.

1.4.　ロックガーデンを高座の滝へ下る

阪急芦屋川駅-会下山-風吹岩-ロックガーデン-高座の滝-阪急芦屋川駅
風吹岩で休憩している間に雲行きが怪しくなって、東の六甲の山際からごろごろいいだして、いっぺんに雲が出てくる。これは雨になる。
本降りになる前に下ろうとお尻をあげるとぽつぽつ雨が降り出したが、本降りにならず。湿った風が顔をなぜる。
予定通り、ロックガーデンの岩道を降りることにする。

岩を伝いながらの急峻なロックガーデンの谷くだりが続く　　2006.7.14.

ロックガーデンからの眺望　2006.7.14.
緑の中に包まれているが、岩峰が林立し、関西でのロック クライミング発祥の地である

風吹岩からロックガーデンの谷に入るといきなり、急峻な岩のくだりが続く。　ロープや鎖がつけられているので心配はないが、ほぼ垂直に下ってゆく。 やつぱり、木々に覆われていて見えなかったが、昔のままの急俊な岩のくだりが続く。雨が降っていて、前のグループも慎重なので時間がかかる。
岩場を抜け、急峻な谷筋を下って　３０分ほどで高座の滝につく。藤木久三のレリーフが滝の横の岩にはめ込まれている。もう何十年ぶりである。
ここからは車道が高座川に沿って下ってゆく。高座川の東側の崖が続く尾根筋は会下山の尾根。やっぱり急峻である。

緑に包まれた高座の滝　　2006.7.14.
ロツク　クライミングの先駆者　藤木久三のレリーフがあり　ロックガーデンのハイクの出発点

高座川に沿って２０分ほど下ってきて　芦屋の市街地まで出てきた時にはまた、快晴。
開森橋からは会下山・城山の向こうに六甲の連山が見える。
約４時間ほどのゆったりハイク　いい汗をかいて　心地よい疲労感。 今日一日の行程を思い出しながら　芦屋川の駅に戻りました。

かつての禿山が緑の山に　東から　甲山・このロックガーデン・神戸摩耶山・再度山等々阪神間の山々の緑が再生されている。 山が荒れていた子供の頃から４０年　環境再生には時間がかかる。　しかし、こつこつ植林すれば確実に緑は再生する。 時間のかかる環境改善にも思いのいった会下山・ロックガーデンハイクでもありました。

高地性弥生集落　これはまた　面白い山歩きのテーマ。簡単には片付けられないテーマである。
産業の米といいながら戦いを持ち込んだ鉄の文明史も絡んでいる。
さしずめ　会下山の資料で知った神戸伊川谷の表山高地性弥生集落に行ってこよう。
いつも通る伊川谷にそんな遺跡があるのか・・・・
この遺跡が鉄と絡んでいれば　それこそ　面白い 是非探さねば・・・と思っている。

2006.7.14.　　六甲を何度も振り返りつつ芦屋川の土手を歩きつつ

2.　弥生の高地性集落　会下山 遺跡　　概　　要

■ 遺跡の発見

昭和 31 年，市立山手中学校が学校植物実習園 をつくろうと裏山を掘り返した時に多くの弥生土器が発見され，その後，数年にわたって遺跡の 発掘調査が行われました。その結果，山頂や狭い尾根筋から 約 2000 年前のムラの跡と当時 の生活道具が続々と見つかりました。
そして，貴重な文化遺産として，昭和 35 年，兵庫県史跡第 1号に指定されてからは周辺の環境整備が整い，当時の生活跡の復元や解説板も設置され， 山の自 然と親しめる阪神間でも珍しい歴史教材園となっています。
山頂からは， 眼下に芦屋の市街地やシーサイド タウン，湾岸線や大阪湾が一望でき，視界のよい日には東に広大な武庫むこ 平野を経て，遠く北摂 ・ 生駒 山系の山並みを見渡せます。 また西は神戸の街から淡路島を， 北は林立する表六甲の高峰を間 近に望める優れた立地を占めています。

発掘時の会下山遺跡から大阪湾を望む

■ 遺　　構

調査によって明らかになった遺構は， 数軒分の 竪穴住居跡，山頂部二ヶ所の祭祀場跡を中心に，南北に伸びる細長い尾根と東方向に分かれる尾 根に点々と存在し， 墓地やゴミ捨て場などの付属施設も備えており， 当時の集落構造がよくわかります。

住居跡

斜面に立地する関係から， 住居は高い方に壁を 作った半竪穴式のものが多く，最大規模の住居が 最も見晴らしのきくいい場所に造られており， 室内には炉をもっています。この家にはムラのリー ダーが住んでいたのでしょうか。

当時の家の形は， 円形が主で，４～５本の支え柱があり，床面に小 さな溝が掘られ，室内の排水か部屋を分ける間仕 切りの役目をしていたようです。

倉庫跡・火たき場

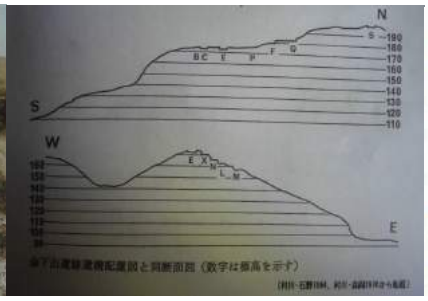
東斜面では倉庫跡が発見され， ここに収められた生産物は， ムラ全体で管理されていたようです。

また，火たき場の跡が残っており，ソトクド（野 外の共同調理場）とも，のろし施設とも考えられています。

のろしは交通や通信の未発達な当時に あっては， 最も簡単で確かな情報の伝達手段であり， 低地の集落では見ることのできない外来船の航行などを順次告げたのでしょう。

祭祀跡

この遺跡周辺の一番高い場所　２箇所で石組みなど祭祀跡がみつかっている。



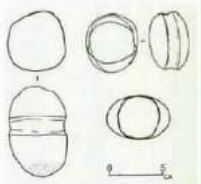
■出土した遺物

出土した遺物は， 日常で使用する容器である弥 生土器だけでなく，打製磨製の石鏃石錐刃器 石剣 石斧　石錘 砥石・石弾などの武器や生産用具の石器類に加えて，青銅製・鉄製の金属 製利器が新たに見られ， 特に青銅製の「漢式三翼鏃」は大陸との関わりを示すものである。

また， 鉄製釣針やイイダコ壷などの漁労具が出土していることから，山のムラであるにもかかわらず， 海まで出て漁をしていたことが明らかとなっています。サンドペーパーがわりに用いた軽石も存在し， おそらく木製の容器なども作っていたようです。

▲会下山遺跡から出土した弥生土器

▲磨製石鏃・漢式三翼鏃・銅鏃

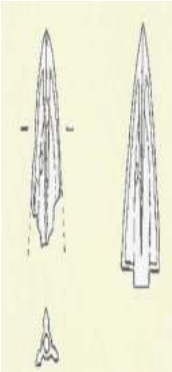


▲石錘・石錘・石弾

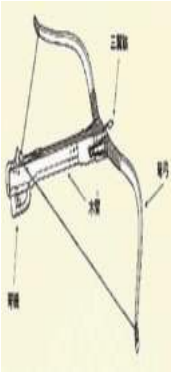
三翼鏃（さんよくぞく）

三翼鏃とは中国の戦国時代から漢の時代に発達し た青銅製のヤジリで、「弩（ど）」という発射装置から発射される矢の先に着くもので、このことから中国伝来の武器があったことがほぼ確認されたのである。

三翼鏃



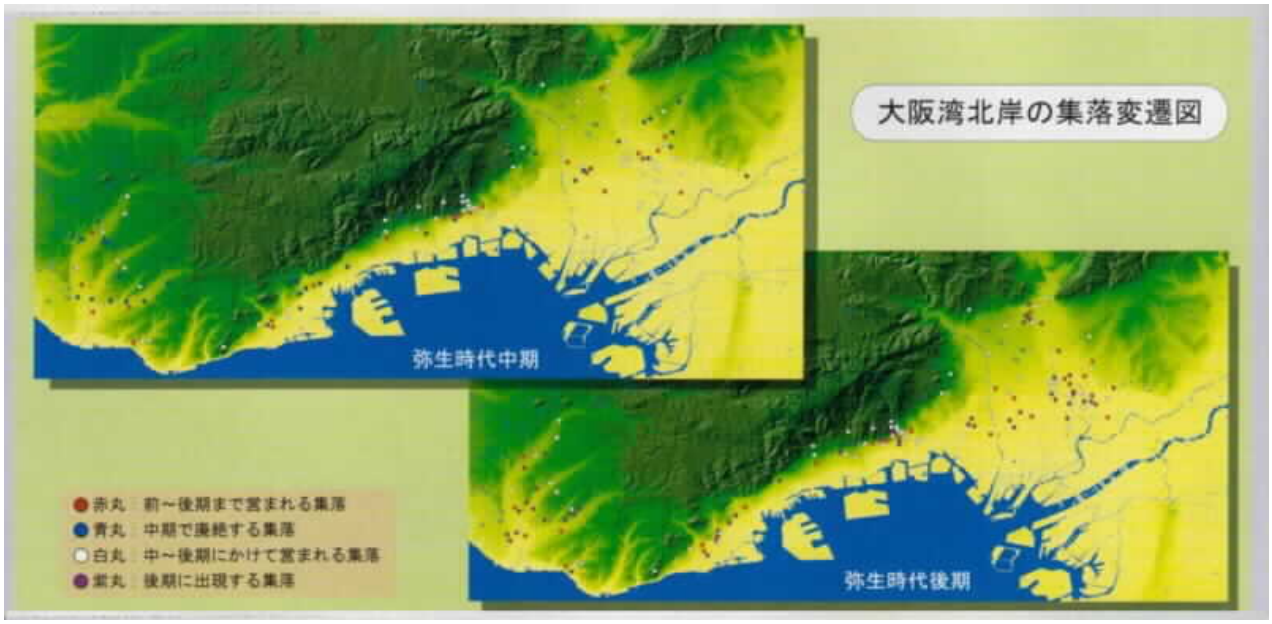
出土三翼鏃実測図



推定復原図　弩図

三翼鏃の大きさ

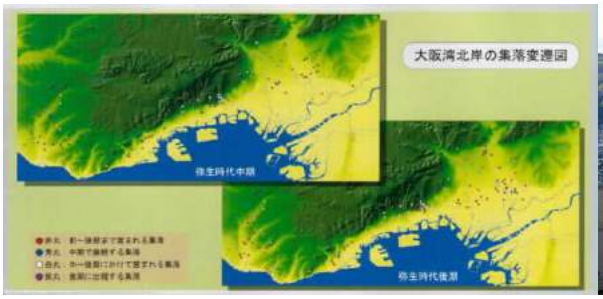
■　大阪湾北岸の集落変遷と高地性集落



3.　高地性集落　会下山の集落の出現　　大阪湾周辺で　何が起きていたのだろうか

第 35 回尼崎市立田能資料館特別展「弥生の戦」資料より　抜粋

寺沢 2000「六甲山から邪馬台国へ　-高地性集落の謎と激動の弥生社会-」より転載



弥生時代の大阪湾北岸の集落の変遷

弥生時代の高地性集落の謎

弥生時代は集落間の戦争が頻発した時代で集落の周りに濠をめぐらせた環濠集落や武器の傷をうけた人骨などが戦乱を裏づける。 弥生前期末に出現する環濠集落は村段階、クニ段階の争いに備えた防衛集落であったと考えられている。 そして、弥生中期後半になると中部瀬戸内沿岸から大阪湾にかけて高地性集落が出現。

弥生時代の普通の耕作地からみて遙かに高い場所（50～300m）に営まれた集落が出現する。

この高地性集落の目的は何なのか、数々の説が在るがいまだ定説はなく謎である。

山の上の集落であるが、山の下の集落との交流や釣り針・漁具・貝に象徴される海との関りも持っていた。

洪水に対する備えであったなどの説もあるが、一般には勢力圏の違う地域間の戦い、つまり九州勢力と近畿勢力というような地域勢力圏を越えた政権争いの戦争に備えた要塞であると推測されている。

会下山遺跡も同じような性格を持つ紀元前 2 世紀から 1 世紀にかけての高地性集落である。

■　大阪湾周辺での弥生の戦さ

第 35 回尼崎市立田能資料館特別展「弥生の戦」より　抜粋

昨年　尼崎の田能遺跡資料館で開催された特別展「弥生の戦」では　大阪湾周辺で起こった「弥生の戦」をわかりやすく展示し、弥生中期後半から高地性集落の出現をふくめ、ドラスティックに弥生の集落が変化する様子を戦さとの関係で捉えてまとめている。

高地性集落も　地域間紛争から　国と国の戦いへと戦が変化する時代の進展と共にその性格を大きく変化させる。

豊中市勝部遺跡から肋骨及び腰骨に食い込むように打製石剣の刺さった人骨が発見され、大阪湾沿岸部ではこうした戦死した人達を葬った墓が前期 6 例から中期 53 例へと弥生中期になって急激に増加する。

また、人骨と共に武器が出土した例から当時の戦の様子がわかる。

環濠や柵の外から弓矢で攻撃を仕掛け、序所に接近戦に移っていったと考えられる。

弥生中期に戦死者が急増したのはなぜか・・・・

戦は稲作と共に伝来したと考えられている。

稲作伝来以来肥沃な土地を求めて開墾が進み、また水を確保するための灌漑施設も作られた。

こうした資源を中心とした平野や川を中心とした狭い地域での戦いが始まった。

それが　時代と共にもっと大きな地域間戦いとなり、後期末には「倭国大乱」を経験して、地域間の戦は倭全土に広がっていった。

石弾 弥生時代中期後半～後期会下山遺跡

▲磨製石鏃・漢式三翼鏃・銅鏃

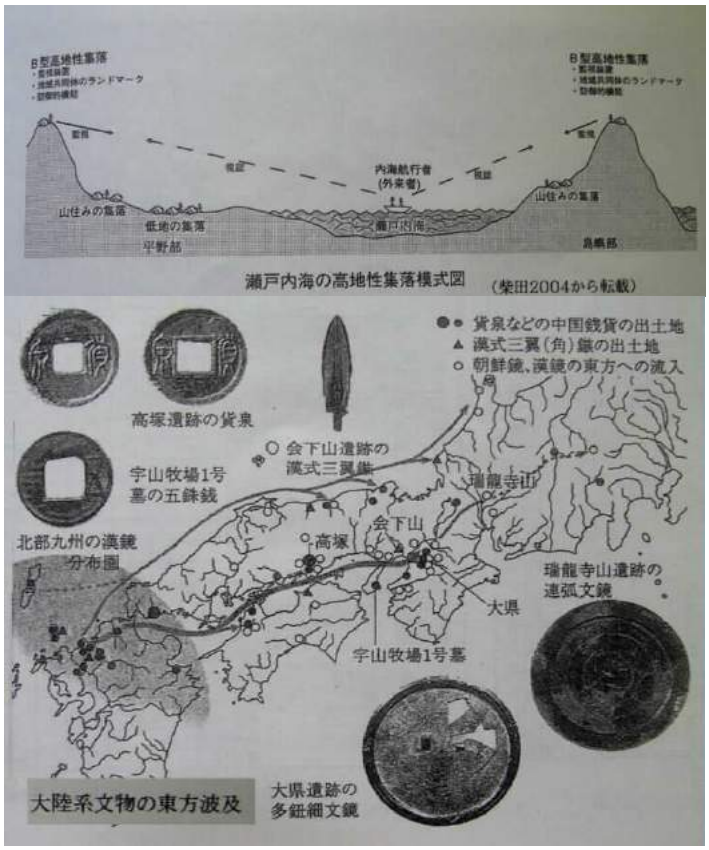
弥生中期の集落は地域の拠点となる集落と周囲に営まれる小規模集落とで一つの地域を形成しているが、後期になると拠点集落が衰退してゆくと共に武器では鉄器が増加する。
そして、中期末から後期前半にかけ、大規模な高地性集落が出現するなど中期までとは社会が変わってくる。
その変化をもたらしたのが、「戦」と考えられる。
弥生中期から後期の集落のあり方を 5 段階に分けて考える。
高地性集落も　地域間紛争から　国の国の戦いへと戦が変化する時代の進展と共に　その性格を大きく変化させている

弥生中期から後期の集落のあり方　第 35 回尼崎市立田能資料館特別展「弥生の戦」資料より　抜粋

1.　中期後半～	瀬戸内沿岸部の山口県東部から兵庫県西部まで島嶼・トウショや沿岸部の海に面した丘・山に営まれる高地性集落の急増期 香川県紫雲出遺跡・岡山県貝殻山遺跡などで　石製武器がピークで　瀬戸内海上ルートの抗争が東から西へ移動する
2.　中期末～後期初頭	近畿地方での抗争　　平野部での拠点集落が解体、大規模高地性集落が出現し、凹線文土器が見られなくなる。 この時期の大規模高地性集落として　神戸表山遺跡（神戸市西区伊川谷）がある。
3.　後期前半の短い期間	近畿地方各地で集落数・土器出土数が減少する一方　高地性集落が各地での代表集落となる この磁器の代表的集落として　芦屋市会下山遺跡がある。
4.　後期中頃以降	各地で分村化が進み集落数増加が見られ、地域によっては高地性集落が消滅する。 中期から後期に掛けての地域間抗争が落ち着く
6．弥生時代末	「倭国の乱」を経験して　その後地域間紛争は倭国全土へ広がってゆく。

■　　**弥生時代の高地性集落の変遷**

寺沢 2000「六甲山から邪馬台国へ　-高地性集落の謎と激動の弥生社会-」より転載



山口・美祢・長門の四季　　2006

1. 6 月の山口に広がる田園風景　山口吉敷の里と油谷半島の棚田　2006.6.2. 0607
2. 風来坊　写真アルバム山口・長門の秋　2006 写真アルバム　美祢の朝霧　　2006.11.7.-11.
    1. 晩秋　美祢の朝霧　　美祢市来福台で
    2. 秋芳町から山口へ　　秋吉カルスト台地　&　鳳翮山 山麓で
        - 山口吉敷の郷　赤田神社の紅葉
        - 秋芳町　別府弁天池
    3. 萩で　国民文化祭　陶芸展と萩の街
    4. 津和野の秋

1.　６月の山口に広がる田園風景

山口吉敷の里　と　油谷半島の棚田　　6.　1.& 2.

田圃に水がはいって、今しか見られぬ晴らしい田園風景が広がっています
梅雨時で　曇り空と青空がめまぐるしく変わる６月の top に半年振りの山口・美祢へでかけました
野山には柔らかな緑が溢れ、田圃に水が入って、周りの自然が映って素晴らしい田園風景が広がっていました。
そんな　６月　山口で出会った田園風景をお届けします

1.　田園に周りの自然を映しこむ山口吉敷の自然　山口市吉敷　2006.6.1.

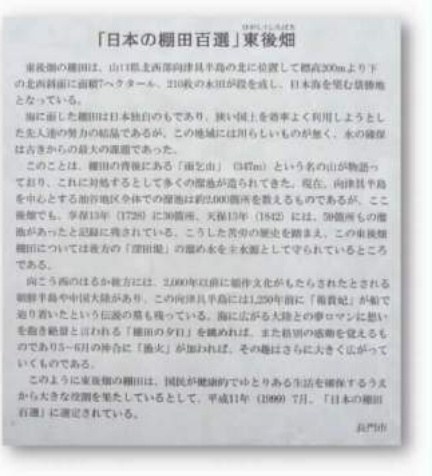
久しぶりに訪れた山口鳳翮山の麓丘陵地にある萩焼の田中さんの庭から見る素晴らしい田園風景
この時期にしか　見られない景色である。
また　田中さんのギャラリーには　素朴な「萩」の作品群と共に洗練された透明感溢れる磁器群が加わっていた
周りの自然に呼応したギャラリーの新しい作品群とともに　せせらぎをほとばしる流れを感じました
田中さんのホームページが更新され、新しい 2006 年初夏の作品群があり
萩焼や陶芸に興味のある方　是非どうぞ

◆　萩焼窯元　陶房葉月　田中講平さんのホームページ
http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/

2.　日本海に面した油谷半島の棚田田園　　山口県油谷町　2006.6.2.

６月２日　昨日山口吉敷の田中さんの庭から見た吉敷の田園風景が印象的で、家内が棚田が見たいという。
もう長いこと訪ねていないが、日本海側長門市の西の油谷半島に素晴らしい棚田があるのを思い出して出かけました。

油谷半島は日本海側にちょっと角を出したリアス式海岸の半島で日本海側には急な崖が続く。
この崖の上の丘陵地の急斜面部を切り開いて畑とした棚田があり、日本海から吹き上げる風による霧が走るのですが、霧が晴れたとき、棚田と真っ青な日本海のコントラストが素晴らしく、まだ有名でなかった時代に一人よくかよったところです。 日本海に面した棚田では　今日は霧が這い、真っ青な日本海をバックにはできませんでしたが、やはり田に水が入って素晴らしい。
この油谷半島の棚田は日本棚田百選に入って　すっかり有名になっていて、棚田マップが作られ、一番高いところにある「東後畑の棚田」は欲整備され、案内板・駐車場まで作られていました。
ちょうど　この棚田に水が張られる 6 月にはいかが日本海を東に上ってゆく頃で、沖にいさり火が点々と続き棚田とそのいさり火の夜がいいという。
そんな写真もパネルになっていて、日曜日にはアマチュアカメラマンの列が出来るという。
本当に変わったものであるが、自然の美しさは変わらない。
東後畑の棚田に行ったときには、霧が一番濃い時で日本海はほとんど見えずでしたが、棚田の畦にアザミが桃色の花を付け、それを前景に素晴らしい棚田が広がっていました。



「日本の棚田百選」東後畑

東後畑の棚田は、山口県北西部向津具半島の北に位置して標高300mより下の北西斜面に面積7ヘクタール、210枚の水田が段を成し、日本海を望む景勝地となっている。

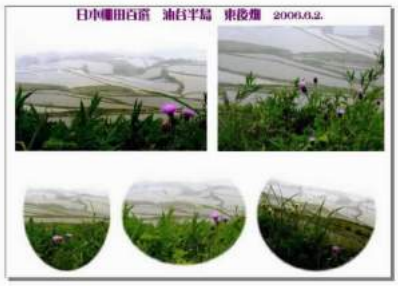
海に面した棚田は日本独自のものであり、狭い国土を効率よく利用しようとした先人達の努力の結晶であるが、この地域には用もしいものが無く、水の確保は古きからの最大の課題であった。

このことは、棚田の背後にある「面乞山」（147m）という名の山が物語っており、これに対処するとして多くの溜池が造られてきた。現在、向津具半島を中心とする油谷地区全体での溜池は約150箇所を数えるものであるが、ここ東後畑でも、享保13年（1728）に30箇所、天保13年（1842）には、50箇所もの溜池があったと記録に残されている。こうした苦労の歴史を踏まえ、この東後畑棚田については地方の「溜田堤」の溜め水を主水源として守られているところである。

向こう西のはるか彼方には、2,000年以前に稲作文化がもたらされたとされる朝鮮半島や中国大陸があり、この向津具半島には1,250年前に「衛貴妃」が船で辿り着いたという伝説の地も残っている。海に広がる大陸との夢ロマンに想いを抱き絶景と言われる「棚田の夕日」を眺めれば、また格別の感動を覚えるものであり5～6月の神合に「施火」が加われば、その趣はさらに大きく広がっていくものである。

このように東後畑の棚田は、住民が健康的でゆとりある生活を確保するうえから大きな役割を果たしているとして、平成11年（1999）7月、「日本の棚田百選」に選定されている。

長門市



2.　山口・長門の秋　2006 写真アルバム　美祢の朝霧　2006. 11. 7. -11.

1.　晩秋　美祢の朝霧　　美祢市来福台で
2.　秋芳町から山口へ
　秋吉カルスト台地　&　鳳翩山 山麓で
　　●　山口吉敷の郷　赤田神社の紅葉
　　●　秋芳町　別府弁天池
3.　萩で　国民文化祭　陶芸展と萩の街
4.　津和野の秋

11 月 6 日から 11 月 11 日まで　山口県美祢の家に出かけました。 もう　例年になりましたが、秋の草取りをかねて、昔の仲間や山口の知人にであったり、山口・美祢の秋を楽しんできました。
今年は美祢で一緒に仕事をした友も一緒で、美祢では思いもかけず仲間が帰ってきてくれたり、訪ねてきてくれたり。
久しぶりに美祢の横丁にも出かけました。
季節は秋たけなわ　山口の一番美しい季節。山口・美祢の秋の写真をアルバムにしました。

山口県のちょうどへそ　美祢盆地は朝霧の季節　今年は何とか　雲海の写真が取れないか・・・・と。
家のある来福台の北の端のタンク山に早朝あがって、雲海の写真は取れませんでしたが、 朝霧にかすむ美祢の街と山々　朝霧をついて　学校に通う子供たちの写真が取れました。 美祢で仕事をしていた頃　朝霧が流れる中を出勤した頃を思い出していました。

また、周囲の山々は紅葉が一番きれいな時　秋吉台も紅葉していましたが、出かけたときは霧雨の曇り空でも　山々には霧がわきあがり、ぱっと紅葉した赤や黄が突然眼前に現れたりできれいでした。
この霧に打たれて　これから　一層　紅葉が深くなっていくことでしょう。

秋吉台カルストの湧水　美祢の北側　別府の弁天池　透き通って青々とした湧水
美祢に帰ると　いつも　この湧水を見に行くのですが、
今年も青々とした透明度の高い青い水に周りの紅葉がその姿を映していました。
何時来ても　気持ちのすっきりするところです

山口吉敷の萩焼田中講平さんの陶房「葉月」にも寄せていただきました。
国道から陶房へ入る横道のすぐ北　吉敷の郷　赤田神社の境内では紅葉のまっさかり
国道の喧騒とは無縁　静かな境内に赤と黄色コントラスト
これで　もう　紅葉はみた　と思いました。

田中さんの陶房の作品を見るのも　美祢・山口へ出かける楽しみ
いつもながら　意欲的で　繊細・優雅な作品の側に　ドカンとダイナミックな厚太な作品も

ちょうど　国民文化祭が山口県で開催されていて、陶芸の分野でも
萩で日本各地から公募された作品展と萩焼作家協会の陶芸家の「器と花のコラボレート」展が
萩の街の旧武家屋敷を使って開催され、田中さんの作品も両方に出展されていました
萩の旧家を会場に家の調度・庭をバックに格子戸や障子から差し込む淡い秋の日差しが
花の生けられた　花器に光と影を演出する
さりげなく置かれた作品が落ち着いた暖かい空間の中でいけられた花とコラボレート
そんな空間の中に　田中講平の萩　「列状文花入」もありました
陶芸展を見て　ほんとうに　ゆったりした気分で　久しぶりに　萩の武家屋敷町を歩きました。
屋敷から顔をのぞかせるみかんの樹が随分減ったようですが、紅葉を始めた樹木に混じって、
青い実をつけて、萩の町らしさを演出。
また、萩の街　浦上記念館では 三輪壽雪先生の「人間国宝三輪壽雪の世界」展が開催中・
90 を超えてなお新しい製作に取り組む姿と作品が放つエネルギーに魅了されました。
数多くの萩の作品に触れ、紅葉した秋の暖かな一日を萩ですごせました。
ここまできたら　津和野にも久しぶりにゆくか・・・・・と
津和野にも行ってきました
そんな　山口・美祢　秋の写真アルバムです

1.　晩秋　美祢の朝霧　　美祢市来福台で　2006. 11. 10.

晩秋　美祢の朝霧　　美祢市来福台で　　2006. 11. 10.

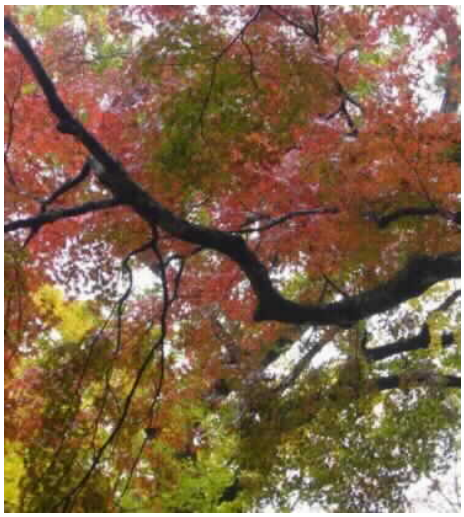
朝霧の中の美祢　来福台で　2006. 11. 10.

2.　秋芳町から山口へ　　秋吉カルスト台地　&　鳳翩山 山麓で 2006. 11. 8. ～11. 11.

美祢・秋芳から山口への道路　美東町周辺で　　2006. 11. 11.

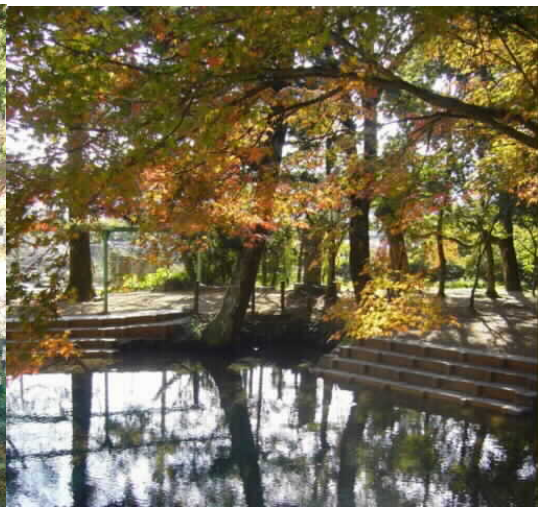
美祢・秋芳から山口への道路　鳳翩山山麓で　　2006.11.11.

■　山口市吉敷の郷　赤田神社の紅葉



山口市吉敷の郷　赤田神社の紅葉　　2006.11.11.

■　秋吉台カルストの湧水　秋芳別府弁天池の湧水　＆ 雨に煙る秋吉カルスト台地



秋吉台カルストの湧水　秋芳別府弁天池の湧水　　2006.11.8.

■ 雨に煙る秋吉カルスト台地　　2006.11.11.

雨に煙る秋吉カルスト台地　2006.11.11.

3.　萩で　国民文化祭　陶芸展と萩の街 2006.11.8.

晩　秋　の　萩　　武家屋敷の街並　　2006.11.8.

国民文化祭・やまぐち 2006　in はぎ　　陶芸展で　　2006.11.8.

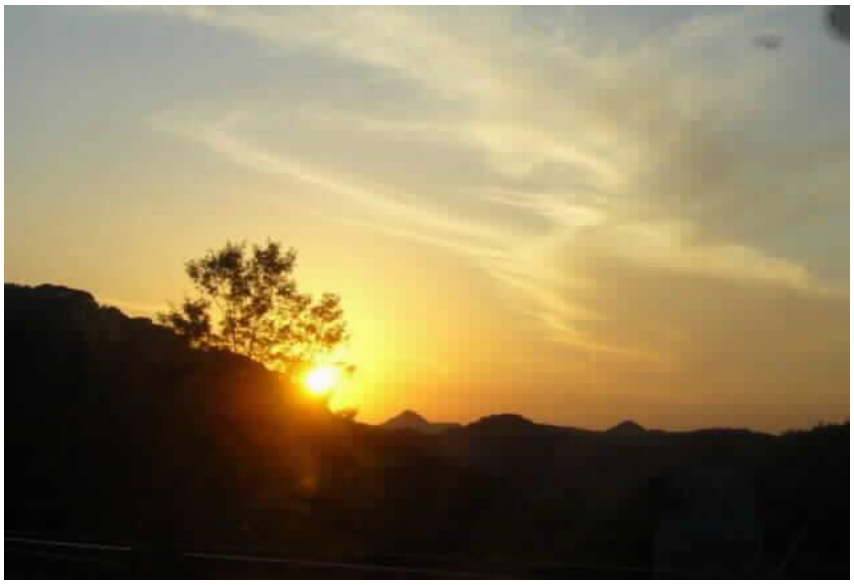
■　田中講平さんの home page　「陶芸展　in はぎ　より　整理転記

http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/0611hgi00.htm

4.　津和野の秋　2006.11.8.

津和野の街並　2006.11.9.

津和野カトリック教会　2006.11.9.



秋芳町　秋吉カルスト台地に沈む夕日　2006.11.9.